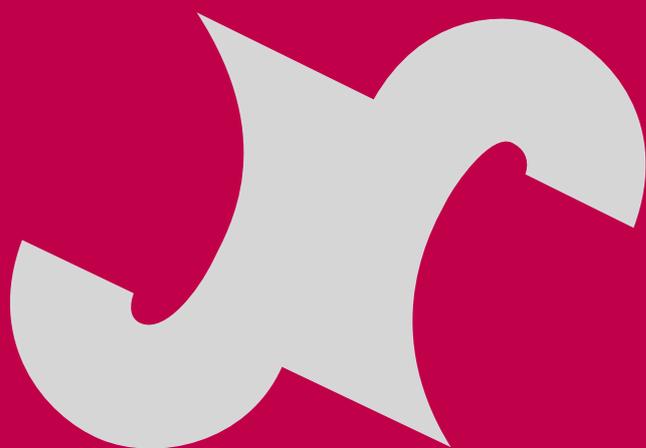


# OKAYAMA YEG BOOK



<http://www.optic.or.jp/okyeg>

岡山商工会議所青年部

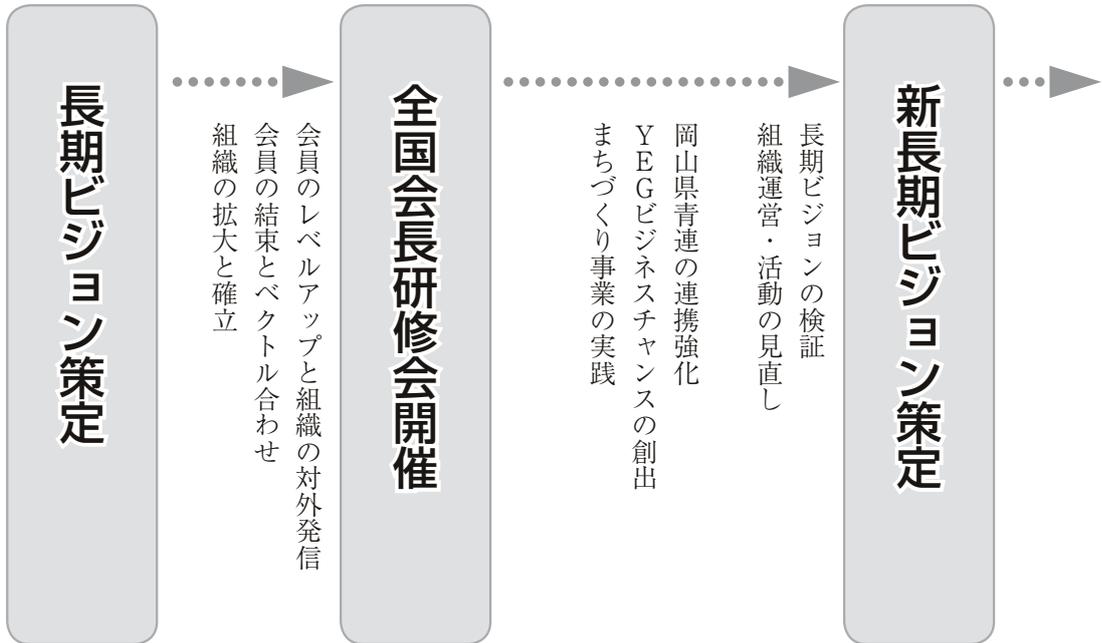
# C ONTENTS 目次

1	岡山商工会議所青年部 歴史	1
	歩み	
	岡山Y E G 年表	
	西大寺Y E G 年表	
	岡山Y E G 初年度事業計画・会員名簿	
2	歴代会長による総括と岡山Y E Gに期待すること	6
	岡山Y E G 平成15年度～平成20年度	
	西大寺Y E G 平成15年度～平成18年度	
3	歴代組織図	15
	岡山Y E G 平成6年度～平成19年度	
	西大寺Y E G 平成14年度～平成18年度	
4	事業の歴史	34
	【岡山】	
	第22回全国会長研修会 岡山CONFERENCE	
	1000人が出会う Hey! Say! Cafe!	
	スポーツによるまちづくり事業について	
	あきんど塾	
	“うらじゃ”でのブース出店	
	【西大寺】	
	吉井川フェスタへの協力	
	少年はだか祭りへの協力	
	会陽懇親会の企画・運営	
	わっしょいカーニバルへの参加	
	【創立15周年記念事業・記念式典】	
5	長期ビジョンの総括と新長期ビジョン	63
6	明日の岡山Y E Gを考える会議 会議報告・答申	66
7	会員の持つ素朴な疑問	74
8	日本Y E Gについて	75
	日本Y E Gのあるべき姿・規約改正	
	Y E G中長期ビジョン提言会議からの提言書	

# 1 岡山商工会議所青年部 歴史

## 歩み

平成5年度	設立	岡山YEG
平成7年度	設立	西大寺YEG
平成10年度	創立5周年	
平成12年度	あきんど塾の開催	
平成13年度	会員アンケートによる意識調査	
平成14年度	創立10周年・長期ビジョン策定	
平成15年度	会員研修委員会設置 全国会長研修会主管決定	
平成16年度	全国会長研修会 開催	全国会長研修会 副主管
平成17年度	あきんどモールの開設 ビジネス交流会の開催 まちの再発見カレンダー作成 Icavi Sayi Cafe!開催	創立10周年
平成18年度	岡山・西大寺YEG合併調印式 四国アイランドリーグ公式戦開催	合併調印式
平成19年度	新岡山YEG誕生	欽ちゃん球団VSチーム岡山試合開催 新長期ビジョン策定 創立15周年・記念事業・ビジネス交流会
平成20年度	新長期ビジョン初年度	



# 岡山YEG 年表

歴代	年度	会長	会員数	スローガン	主な事業
初代	平成5年度	大倉 推	80名		・設立総会（平成5年4月8日） ・研修会（講演会）
第2代	平成6年度	近藤典博	141名	大好き岡山、住みたい街、 魅力ある会社作り	・旭川クリーン作戦参加 ・YEGマーケット村
〃	平成7年度	近藤典博	141名	地域の宝となろう、 友達になろう、学ぼう	・高知・米子・児島・岡山連携交流会 ・岡山県経済団体青年部連合会設立
第3代	平成8年度	西下裕平	172名	よっしゃ岡山、にぎわいのYEG	・中国ブロック大会開催準備室開設 ・「チボリ公園」説明会 ・高松城水攻めの謎を探るシンポジウム
〃	平成9年度	西下裕平	201名	よっしゃ岡山、にぎわいのYEG	・第15回中国ブロック岡山大会開催 ・旭川遠泳
第4代	平成10年度	石井英行	203名	組織を固め、中味から熟しよう、 厳しい時代に温かいYEGを創ろう 殻を破り、新しい地域経済戦略を 模索しよう	・創立5周年記念式典 ・元気の出る講演会
〃	平成11年度	石井英行	201名	エキサイト 益彩都!! 岡山	・岡山YEG益彩都マップ2000発行 ・西暦2000年フォーラム （アントレプレナーズを求めて）
第5代	平成12年度	大塚祥文	201名	繋ごうOKAYAMA、man power 2000	・会報よっしゃ岡山の発行 ・21世紀初春講演会 （岡山後楽園の楽しみ方）
第6代	平成13年度	梶谷俊介	172名	What's YEG !! みんなで考えよう、岡山YEG、 そこから新しい世界が見えてくる	・21世紀初頭における岡山YEGの方向性 ビジョン委員会にてアンケートを実施 ・親睦大ボウリング大会
第7代	平成14年度	大塚雅司	179名	LET'S BUSINESS	・創立10周年記念事業 ゆめ・愛 球宴 イン岡山2002 「少年野球教室」日本プロ野球28会 ・創立10周年記念式典 長期ビジョン策定
第8代	平成15年度	井上和宣	185名	若きビーバー達 さあ 歩み始めよう!	・長期ビジョン YEG大賞：商青連会長特別賞受賞 旭川遠泳 主催から後援事業へ ・会員研修委員会設置
第9代	平成16年度	吉原洋二	196名	感動の舞台を今! あなたが! ～縁～	・第22回全国会長研修会 岡山CONFERENCE 開催 ・日本YEG副会長輩出
第10代	平成17年度	藤井一也	214名	見直そう足元を! 見つけ出そう宝物!	・1,000人が集まる Hey! Say! Cafe! YEG大賞：グランプリ ・岡山再発見カレンダー&写真コンクール ・やってみようビジネス交流会 ・日本YEG事務理事輩出
第11代	平成18年度	廣野景治	218名	スキルアップYEG ～輝け若き企業家たち～	・四国アイランドリーグ 少年野球教室 ・Hey! Say! Cafe! ・岡山・西大寺YEG合併調印式
第12代	平成19年度	塩見泰利	263名	ステップアップ! 新岡山YEG! ～自身も、会社も、私のまちも～	・新岡山YEG誕生 ・欽ちゃん球団 少年野球教室 ・5 YEG主催 Hey! Say! Cafe! ・創立15周年記念式典 記念事業 新長期ビジョン策定

# 西大寺 YEG 年表

歴代	年度	会長	会員数	スローガン	主な事業
初代	平成7年度	木村基樹			・ 設立（平成7年6月29日） ・ 会員親睦ゴルフ大会
〃	平成8年度	木村基樹			・ 会員親睦ボーリング大会 ・ 県青連会員親睦ゴルフ大会（主管）
第2代	平成9年度	三枝 良			・ 経営講演会
〃	平成10年度	三枝 良			
第3代	平成11年度	岡田伸政		人さがし、人づくり、人は地域の宝物！	・ 例会の開催（年5回）
第4代	平成12年度	岡崎昌仁		人さがし、人づくり、人は地域の宝物！	・ 創立5周年記念祝賀会 ・ 中心市街地活性化懇談会
第5代	平成13年度	山崎昌宏		夢の21世紀となる為に……………	・ 青年部連絡会議
〃	平成14年度	山崎昌宏	47名	夢の21世紀となる為に……………	・ 広島国税局視察研修会
第6代	平成15年度	根木克己	57名	夢ある西大寺	・ 県外 YEG との交流事業 ・ 3 YEG（岡山・玉野・西大寺）ソフトボール大会 ・ 家族懇親会
〃	平成16年度	根木克己	64名	'THINKING TRY' 考えて、行動する	・ 県青連親睦ゴルフ大会（主管） ・ 岡山・西大寺 YEG 合同例会 ・ 第22回全国会長研修会 副主管 エクスカーション西大寺会陽
第7代	平成17年度	近藤勝彦	59名	商 健 笑 勝	・ 創立10周年記念式典
第8代	平成18年度	山本岩男	52名	再考！倫理観、まちづくり、 そしてビジネス	・ 西大寺再発見ツアー開催 ・ 岡山・西大寺 YEG 合併調印式

# 岡山YEG 初年度事業計画（平成5年度）

## 1. 計画

### （1）基本方針

会員相互の親睦、連携を密にし、岡山商工会議所事業活動への参画、協力と自己研鑽を通じ、次代を担う青年経済人としての資質の向上と、商工業の振興を図り、豊かな地域経済社会を築くことを目的とする。

### （2）会議に関する事項

（ア）通常総会（年1回）必要に応じて臨時総会の開催

（イ）役員会（随時）

（ウ）その他必要な会議

### （3）事業活動に関する事項

（ア）岡山商工会議所青年部としての意見を上申すると共に必要に応じて関係方面に具申し、また建議すること

（イ）会員相互の親睦と研鑽並びに商工業の経営の近代化に関する調査、研究及び講習、講演会の実施

（ウ）例会（年6回）の開催

（エ）前号に掲げるもののほか、本青年部の目的を達成するために必要な事業の実施

## 2. 実績

### （1）総会

（ア）設立総会 4月8日（木）岡山国際ホテル（55名）

（イ）臨時総会 12月8日（水）乃利武

（2）正副会長会議 7月26日（月）岡山商工会議所

（3）理事会 9回開催 岡山商工会議所など

### （4）委員会開催

総務委員会（3回）、研修委員会（5回）、親睦委員会（4回）、組織委員会（4回）、事業委員会（5回）、例会委員会（4回）

（5）例会 6回開催（内2回講演会実施）岡山アークホテルなど

（6）会員アンケート調査及び報告書作成

### （7）研修会及び親睦会

（ア）研修会 4回実施 商工会議所会員講演会など

（イ）親睦会 3回実施 親睦ゴルフ

### （8）その他

岡山商工会議所婦人会改組記念パーティ、県青連親睦ゴルフ、中国ブロック会長会議、県青連役員会、「北海道南西沖地震の被害に対する北海道商工会議所青年部連絡協議会の災害義援金」募金への協力、商青連中央研修会、「吉備線電化促進」街頭啓発の実施

## 岡山YEG設立時 会員名簿 (平成5年4月)

会長	大倉 推	榎本 明	下山 英一	長谷川 誠
	青木 康展	大岩 道典	高谷 昌宏	林 壮治
	秋山 哲三	大賀 幸雄	武 和志	早瀬 文明
	安部 修司	大倉 治	谷口 政通	福島 正春
	洗井 健一	太田 保	寺岡 宏行	福光 富則
	荒木 雷太	大塚 祥文	徳山 靖彦	藤井 昌三
	安藤 英一	垣下 文正	戸部 正昭	藤原 直樹
	池田 和繁	梶原 康彦	友杉 俊郎	細田 一郎
	池田 満之	岸 卓志	鳥津 守	堀 太郎
	石井 平	岸本 桂治	中川 貴夫	正信 行雄
	石井 久年	木下 崇雄	仲田 豊	松岡 徹
	石井 秀明	木下 素希	永野 資幸	松田 久
	石井 英行	桑原 善仁	長光 正明	三宅 修
	井上 宏治	河内 良忠	西下 裕平	宮下附一竜
	井上 信二	小林 秀明	西山隆三郎	森元 幹雄
	上本 和男	近藤 典博	丹羽 正元	安井 隆
	宇治郷 亘	斉藤 賢	野崎 和良	山下 和良
	畦平 雅由	佐藤 三平	野田 好信	湯浅 敏由
	浦上 昭人	澤田 正雪	則武 公生	横山 卓司
	上神 良和	下田 修郎	八田 高志	吉岡 正夫

(80名)

## ● 2 歴代会長による総括と岡山YEGに期待すること

岡山商工会議所青年部  
平成15年度 第8代会長  
井上和宣



平成15年度には、二つの使命がありました。

一つは、前年度の岡山YEG長期ビジョンの策定を受けて、その実行初年度として確実なスタートを切ることです。もう一つは、翌年度に控えた全国会長研修会 岡山CONFERENCE の準備を整えることでした。私は、その二つを連動させることが何より重要だと考えていました。

長期ビジョン（5年後の目指すべき岡山YEGの姿）を作成するにあたり、プロセスの中間に位置する全国会長研修会の主管を、ビジョンを実践するための手段として位置づけました。すなわち、主管の目的は、岡山YEGの発展・レベルアップと会員（さらに言及すれば岡山県連会員）の結束、そして全国に対して岡山を発信する大きな機会だと考えていました。

そのために長期的な観点から、企画案を通じての日本YEGへの働きかけと、岡山YEG内外での主管意義の共有に力を注ぎました。そのキーは、「参加者の視点に立ち、ゼロから企画すること」だと考えました。自らが主体的に企画・立案に取り組み実行に繋げるからこそが、モチベーションを上げ、大きな達成感（結束力）を生み、レベルアップする道だと思います。

同時に、長期ビジョンの柱でもある会員企業の発展、ビジネスチャンスの拡大を考えれば、5年後を睨み会員拡大を図り、より大きなネットワークを構築することは、岡山YEGにとってさらなる飛躍の可能性を生むことだと思いました。会員研修委員会を新設して会員拡大に積極的に取り組んだのは、そのような理由からでした。

大会を成功に導き、西大寺YEGとの合併も果たし、さらなる発展を続ける岡山YEGには、輝かしい未来と大きな責任があると思います。

会員企業繁栄のために、自らが地域創造のリーダーとしての自覚を持ち、その組織力と機動力を活かした活動を展開されますことを一OBとして願って止みません。

**【スローガン】** 若きビーバー達 さあ 歩み始めよう！

- 【重点目標】**
1. ビジネスチャンスを探して
  2. ビーバーオアシス岡山に向かって
  3. 全国会長研修会の成功に向けて
  4. 無駄のない組織運営を考えて

基本、心棒は、委員会にあります。充実した委員会活動こそが、我々の想いを実現する最良の手段です。

岡山商工会議所青年部  
平成16年度 第9代会長  
吉原 洋二



平成16年4月から岡山YEGの12周年目を担当させて頂きました。

発足して10周年目に岡山YEGの方向性が議論され長期ビジョンが策定されました。

その実行年度2年目に第22回全国会長研修会 岡山CONFERENCEの主管という手法を元に、将来の岡山YEGとしての方向性と活力ある地域経済人を育てるという観点から、メンバーひとり一人が高いクォリティとレスポンスを持ってYEGを形成し、そして提案発信さらには建議活動にと方向性をシフトしながら、邁進することが経済団体としての責任で有ると気付かされた1年であり、岡山YEGから全国各地YEGに、進化への自信と活力の突破口として岡山CONFERENCEは位置づけられたと思っております。

当時のメンバーの皆様、大変お世話になりありがとうございました。

自分の成長を通じて夢に挑む、その事が自企業を発展させる。企業の発展が地域発展の牽引力となり、その企業を永続化させる。これが、YEG活動の出来る基本です。

急成長をしてしまった岡山YEGには、経済団体としての運動は良く分かっているが、各自メンバー企業の経営状況の把握を最適に吟味しながら、YEG活動をどう捉えるかの議論が欠けていると感じ始めています。要するに会社の経済活動があって初めてYEGが出来るのです。

あなたは、勘違いしていませんか？永遠の繁栄の為に自社を見つめ直してみてください。

**【スローガン】** 感動の舞台を今、あなたが！ …… 縁 ……

**【重点目標】** ①原点に立ち返り、会員同士の資質向上と信頼関係に奥行きと幅を作り一層の絆を深めよう。

②全国のYEG会員との出会いに感謝の気持ちを持ち“縁”を作ろう。

岡山商工会議所青年部  
平成17年度 第10代会長  
藤 井 一 也



全国会長研修会翌年の会長ということもあり、会員が一丸となっていました。また、会長研修会を主管したことにより得られた貴重な体験と多くの情報やネットワークを単会運営や様々な連携に生かすことができ、岡山YEGの大きな力になりました。そして、個々の会員の資質向上と互いのビジネスの発展、岡山の将来、YEGの在り方を考えることができました。その結果として、掲げたスローガンを十分に実践することができ、初めての試みとして開催した「1,000人が集まる Hey! Say! Cafe!」でYEG大賞グランプリを頂くこともできました。

今後も、会員が一丸となり、得た大きな力を生かしながら、さらに進化、発展するYEGであるよう願っています。

**【スローガン】** 見直そう 足元を！ 見つけ出そう 宝物！

**【重点目標】** ①岡山の街の再確認  
②200人との名刺交換

岡山商工会議所青年部  
平成18年度 第11代会長  
廣野景治



平成16年度の全国会長研修会の主管決定を契機として、素晴らしいリーダー達の牽引により、岡山YEGは大きな進化を遂げました。私自身が会長職を経験する中で、その先人達の掲げたビジョンや道しるべの奥の深さをあらためて感じ、高い能力と実行力をそなえた岡山YEGが、会員にとってより良い会となるにはどうすれば良いのだろうか、また、自分たちの住む地域のためになり、会員であることの誇りの持てる会となるにはどうすればよいのだろうかと模索し続けた一年でもありました。

平成19年度、梶谷議長のもと「明日の岡山YEGを考える会議」の副議長として、旧西大寺YEGの会長経験者と一緒に新長期ビジョンを検証する中で、今後の岡山YEGには大いなる可能性と期待を感じています。

まずは、会員と会員企業にとって魅力ある組織でなければならない。大きなテーマですが、会員自身が真剣に取り組めばその答えは生まれてくるでしょう。そして、地域の中核をなす経済団体の青年部として、組織の役割を明確にして行動していくこと。新長期ビジョンにあるように、この両輪が揃ってこそ輝ける未来があると確信します。

**【スローガン】** スキルアップYEG ～輝け若き起業家たち～

- 【重点目標】**
- ①YEGブランドの推進
  - ②企業人としてのスキルアップ
  - ③委員会活動の充実

岡山商工会議所青年部  
平成19年度 第12代会長  
塩見 泰利



平成19年4月1日をもって岡山YEGと西大寺YEGは合併をし260名を越える単会となりました。合併初年度でもあり、メンバー同志の交流のチャンスを多く作りたいと思い、従来YEG事業（西大寺YEGの全事業含む）に加え、欽ちゃん球団との試合・5YEG共催のHey! Say! Cafe!・15周年記念事業・式典懇親会と盛りだくさんであり、執行部・理事をはじめ会員の皆様に非常にご負担をお掛けしたのではないかと、心苦しい思いを感じております。

しかしながら、事業を行うことでのメンバー同志の一層の交流が出来、また、同じ事業を青年部が何年も継続するのではなく、本来のあり方を考え、他団体への移行するプロセス等の成果も沢山あったのではないかと考えております。

今後20周年へ向けて、岡山YEGは単会内の足固めは続けながら、青年経済人の視点をもった郷土岡山の町づくりへの参画、県連・ブロックそして日本YEGに対するスタンスを明確にし、リーディングYEGとしての役割を果たして行く必要があるのではないのでしょうか。

新長期ビジョンをメンバー全員で共有しながら、あらゆる意味で日本一のYEGになれるよう後輩の皆様にもエールを送り続けたいと思います。

**【スローガン】** ステップアップ！新岡山YEG！  
～自身も、会社も、私のまちも～

**【重点目標】** 会員同志のより一層の交流  
会員個々の企業人としてのステップアップ  
誰もが自慢できるYEG  
自らチャンスをつかめるYEG

岡山商工会議所青年部  
平成20年度 第13代会長  
延 原 正 浩



今後の岡山YEGに期待すること  
会員の皆様へ

入会当初はただ活動に参加するだけにして、しばらくの間様子を見てみるのも良い事だと思いますが、少しYEGに慣れたらその組織の運営にも目を向けてみませんか。

そして、YEGの中で取り組む「自分の目標」を探してみませんか。

それは「委員長になる」でも「単会の会長になる」「日本YEGの会長になる」でも「新しい事業を生み出す」でも「会議所の制度を利用する」でも構いません。

わたくし達は「商工会議所」と言う「縁」により、多くの人が集い、一緒に活動しています。

今の岡山YEGは参加しているだけでも役に立ち、楽しいのですから、もう一歩前に踏み出すことによって得ることができる体験は、「考え方」次第ではこのうえないものになるはずです。

一人ひとり立場は違いますが、少し工夫をして機会を作り出して「自分の目標」に取り組んでみて下さい。

**【スローガン】** We are YEG！

～おかやまに誇りを！ 挑もう！日本一！！～

**【重点目標】** 一人ひとりが「目標」と「夢」を持とう！そしてもっと語り合おう！

わが街「おかやま」に関心を持とう！そしてもっと知ろう！

商工会議所を知ろう！そしてもっと有効に活用しよう！

## 西大寺 YEG 平成15年度～平成18年度

西大寺商工会議所青年部  
平成15年度・16年度 第6代会長  
根 木 克 己



### 【所信、スローガン】

激動の日本経済、長い不況が続いていますが、すべてが衰退している訳ではありません。

単に「勝ち組」と「負け組」の区別が明瞭になってきただけではないでしょうか？要するに「ビジネスモデルを変える」ことに成功した企業だけが再び成長期に入ったのでしょうか。「ビジネスモデルって何だ？」と難しく悩む必要はありません。少しだけ「今の仕組みをこう変えたらどうなるのだろう…」と想像してみてください。「角度を変えて見たら…」「前後を入れ替えたら…」「中間を無くしたら…」どうなるのだろう…本当に何でも良いので考えてみて下さい。その中から必ず、素晴らしいヒントが発見できるはずです。そして、発見したヒントをじっくりと練り上げて、行動プランを立て、その次は行動するのです。考えるだけでは何も変えられません。実行が伴わなければ、何も考えていないのと同じです。私は'THINKING TRY'「考えて、行動する」を常に実践し続けることこそ、我々経営者の最も重要な使命だと考えています。

### 【総括及び岡山YEGに期待すること】

勤勉にして不断の努力を怠らない人が必ず成功するとは限らない世の中ではありますが、やはり日頃の研鑽、自己啓発が重要であることは間違いありません。それをベースにもう一歩踏み出して「仕事の仕組みを変革する」アイデアを考え、実行に移してみてもどうでしょうか。現状のままで満足している者にはチャンスは訪れないと思います。常にチャレンジ精神を持つ事が大切ではないでしょうか？

岡山YEGには今よりもっと上を目指して「考えて、行動する」、組織にとらわれない、そして本気で地域岡山を考える若手経営者の集団になってほしいと思います。

平成15年度

【スローガン】 夢ある西大寺

### 【事業方針】

1. 西大寺に根ざした組織として、他YEG・産官学と協力し、地域社会・教育の発展に貢献する。
2. 西大寺会陽のはだかの渦のように、人の輪（渦）を拡大する。
3. 西大寺らしさ（歴史）を大切にする。
4. 例会の内容を充実させ、少しでも会員に有益な情報提供できるような仕組み作りをする。
5. 岡山市情報水道を利用したコンテンツの提供等を検討する。
6. 会員相互、他団体との親睦を深める。

平成16年度

【スローガン】 'THINKING TRY'「考えて、行動する」

### 【事業方針】

1. 文化を大切にし、地元西大寺に根ざした組織として、地域社会の発展に貢献する。
2. 西大寺会陽のはだかの渦のように、人の輪（渦）を拡大する。（目標会員数80名）
3. 例会の内容を充実させ、会員に有益な情報提供できるような仕組み作りをする。
4. メディア、商工だよりを通じて、青年部活動のPR・広報活動の強化。
5. メール・ホームページを積極的に活用し、会員へのビジネスチャンスの提供を行う。
6. 県内各地の青年部との交流を深め、全国会長研修会岡山会議に積極的に協力する。
7. 会員相互、他団体との親睦を深める。

西大寺商工会議所青年部  
平成17年度 第7代会長  
近 藤 勝 彦



商売、健康、笑い、勝つ…

単純、かつわかり易い理解し易いと考えたスローガンでした。

青年部も創立10周年を迎え将来を見据えながらの活動を考えていましたが岡山商工会議所と西大寺商工会議所の合併が決まり、方向転換を余儀なくされた一年でありました。

その中で、創立10周年の記念式典、記念事業、懇親会、シンプルにまた一定の方向性をもった事業が遂行できたと思います。

例会においても各担当委員会がそれぞれの想いの中で、個性的で楽しい例会ができました。

また、合併に向けての協議会のなかではいろんな問題点があり、合併の難しさを痛感した一年でもありました。

一つの通過点を過ぎ、平成19年、岡山商工会議所と西大寺商工会議所が合併できました。

合併を経て、岡山YEGとして更なる発展を目指すことと思います。

今日までのことを、明日に向けて…

**【スローガン】** 商 健 笑 勝

**【基本方針】**

西大寺商工会議所青年部も平成6年発足以来本年で10周年を迎えることができました。これもひとえに関係諸団体、諸先輩方のご支援、ご協力の賜物と心から感謝いたします。この会の発足以来、西大寺商工会議所の青年部会として、地域のため、また個々の修練のためにいろいろな活動をしてきました。

今、時代の変革期… 今までの10年間の蓄積を財産にしながら、その財産を有効利用していきたいと思えます。

西大寺商工会議所青年部  
平成18年度 第8代会長  
山本岩男



この1年の活動は、やはり合併に向けての活動が多かったために、掲げたスローガンの活動と言うよりもみんなをまとめて新岡山YEGとなるための準備期間というような役割が多かったです。岡山YEGとの協力事業（四国アイランドリーグの公式戦を岡山球場で行い・またHey! Say! Cafe!を理解し協力した）が結構大きな役割を持ち、協議も1年間をかけ、結果的には40名を超えるメンバーと共に新岡山YEGとなりました。思っていたよりもスムーズなかたちで一緒になる事が出来たと思います。

そして、19年度は西大寺YEGと一緒にあったことでさらに弾みがつき、岡山YEGとしても大きく成長した年ではなかったかと思えます。

綱領・指針を唱えるたびに思うのですが、すべてはここに集約されていますし、この内容をいっそうしっかりと理解し、この精神のもとに活動をさらに活発に行われる事を期待します。

#### 【スローガン】

再考！倫理観、まちづくり、そしてビジネス

#### 【基本方針】

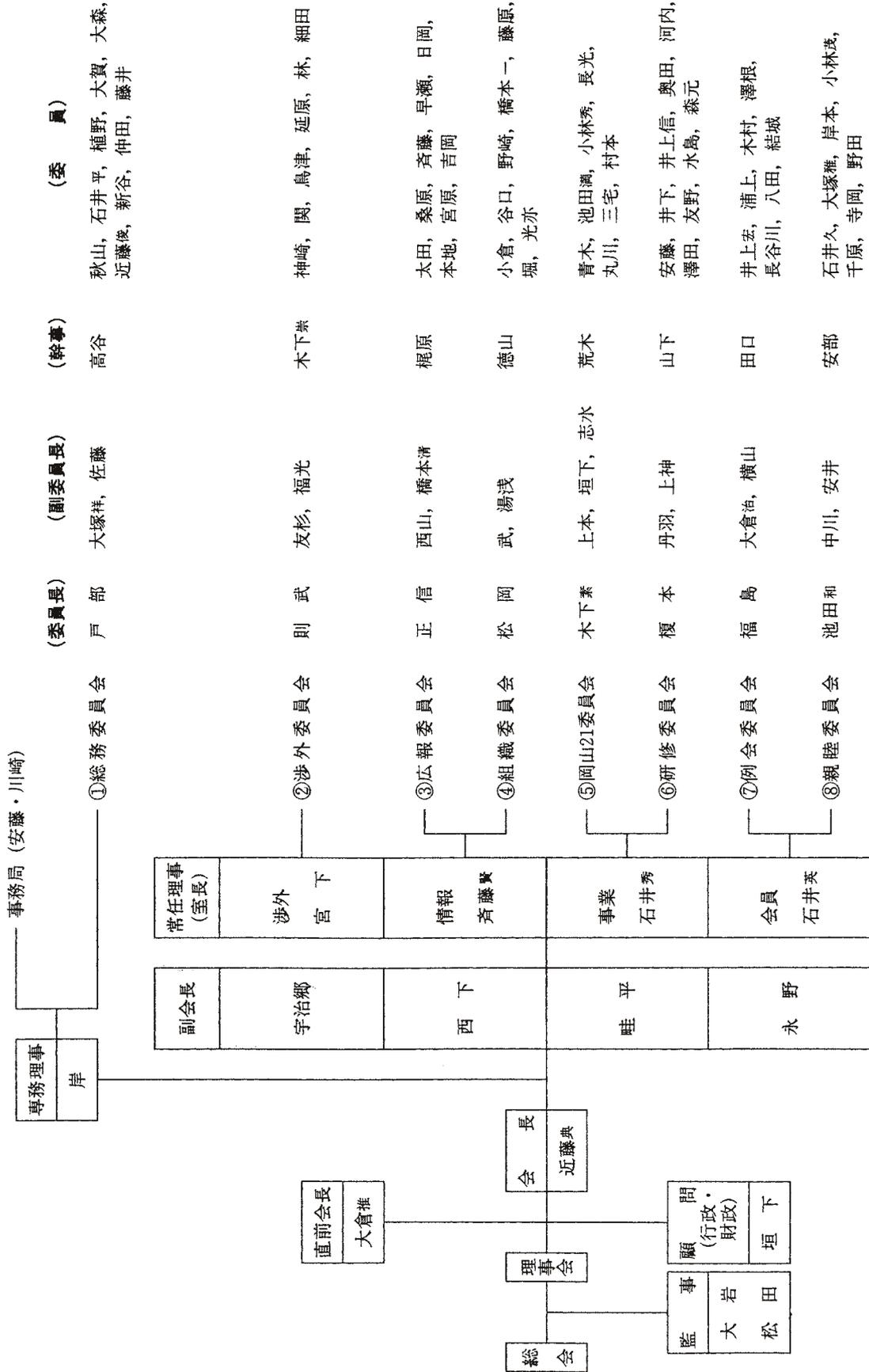
ご存知のように西大寺商工会議所は、平成19年4月1日付けで岡山商工会議所と合併します。そして、我々青年部も岡山商工会議所青年部となることは、決定されています。発足以来11年、暗中模索の中、懸命に努力を重ねてまいりました。この最後の1年に、西大寺に何か形を残そうではありませんか。

そして皆さんのビジネスが、より元気になるためにも岡山との合併をチャンスに飛躍できる様になんげり抜こうではありませんか。

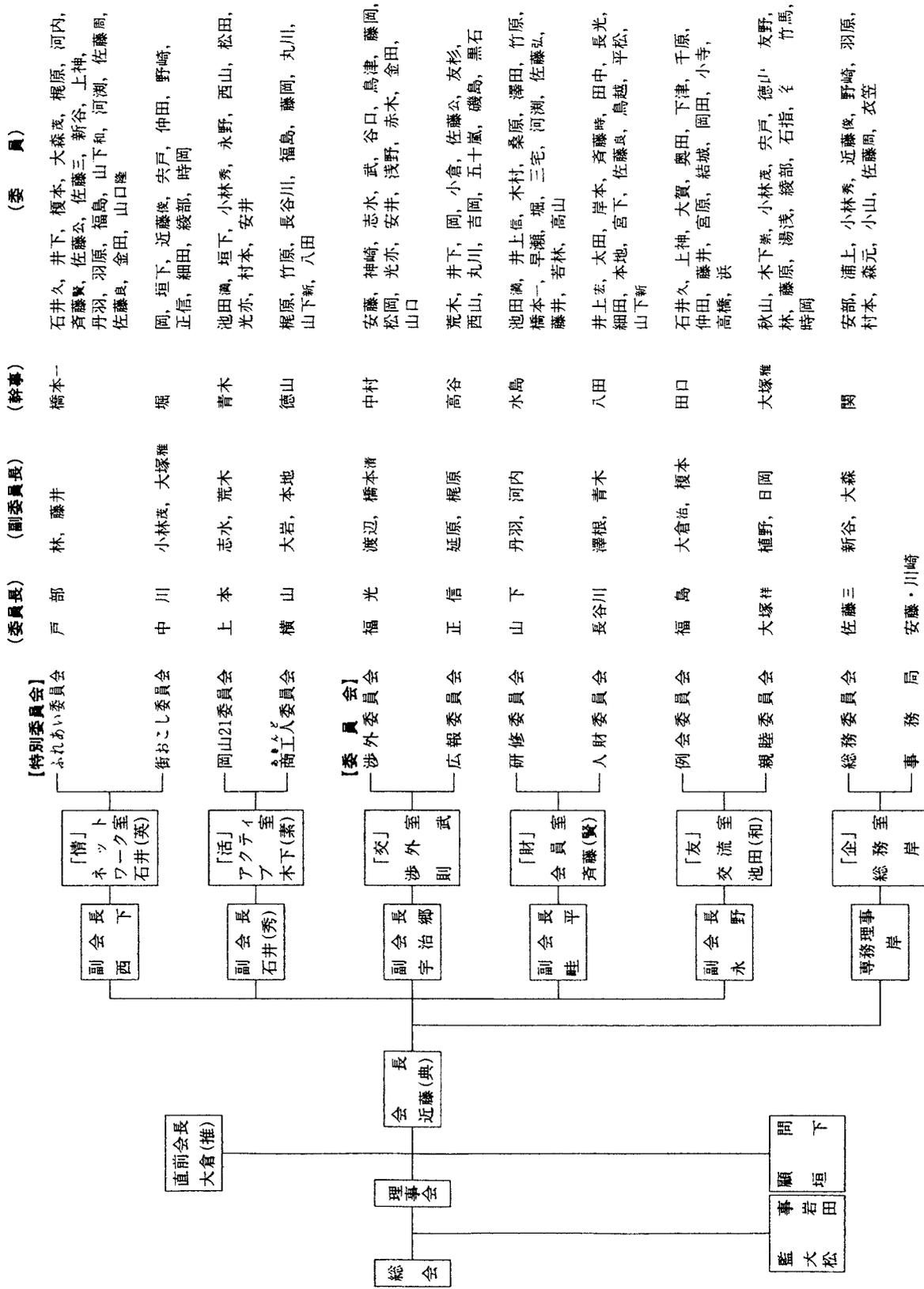
### 3 歴代組織図

## 岡山YEG 平成6年度～平成19年度

### 平成6年度 岡山商工会議所青年部組織図

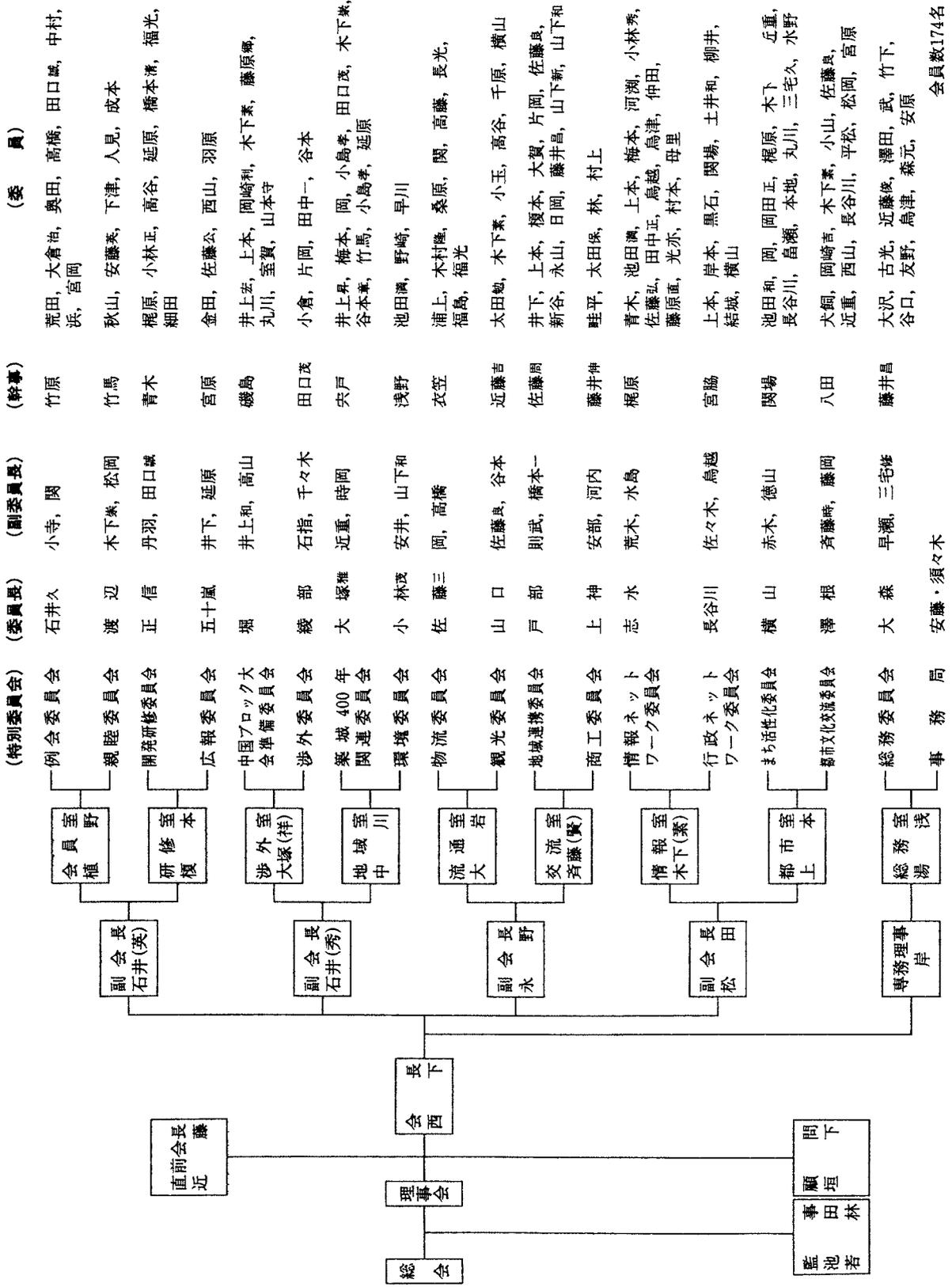


# 平成7年度 岡山商工会議所青年部組織図

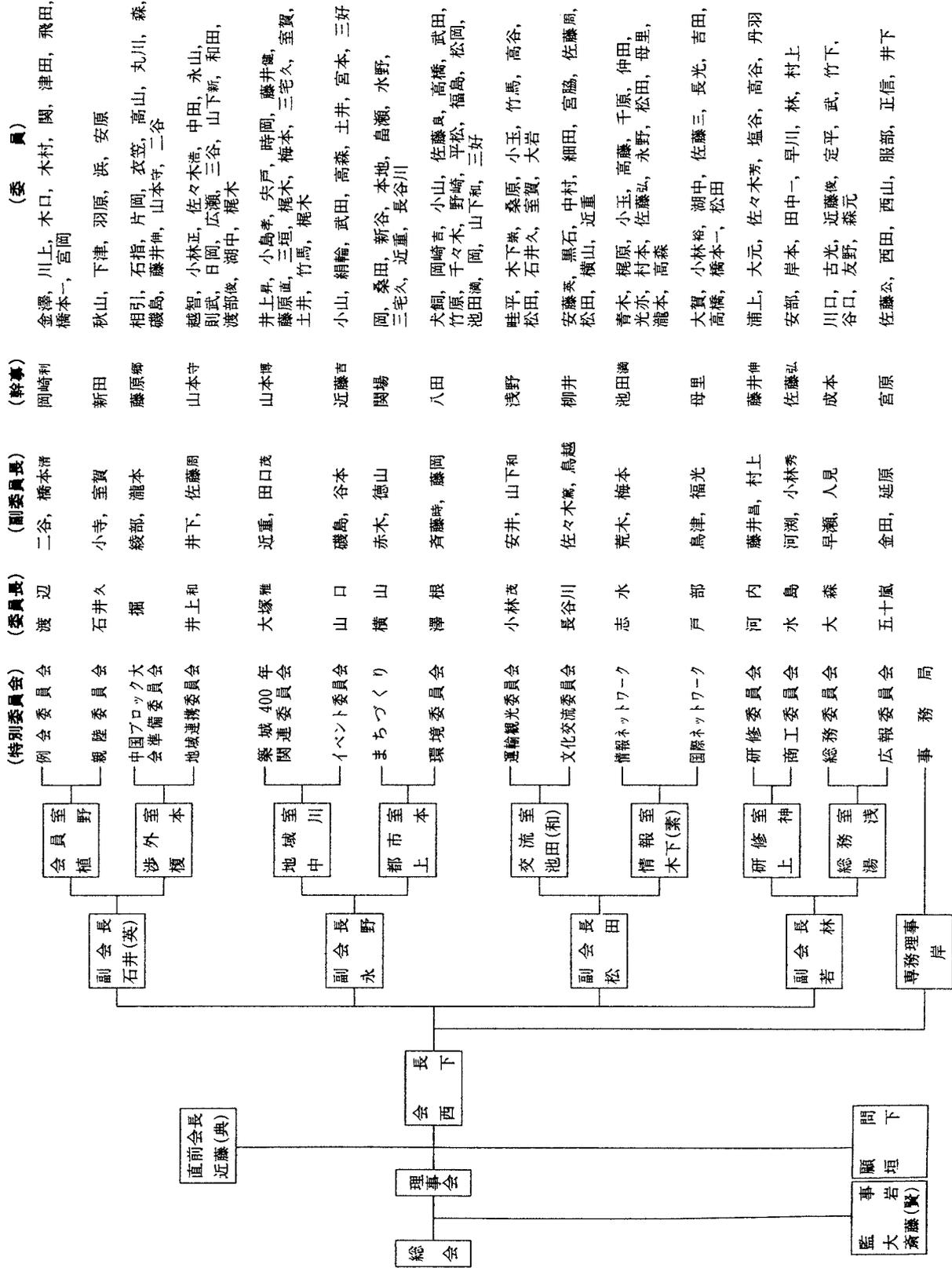


\* 第8回県青連ゴルフ大会実行委員会プロジェクトチーム——実行委員長 西下 ——実行副委員長 岸  
——実行委員会メンバー——池田和, 各委員長, 親睦委員会メンバー

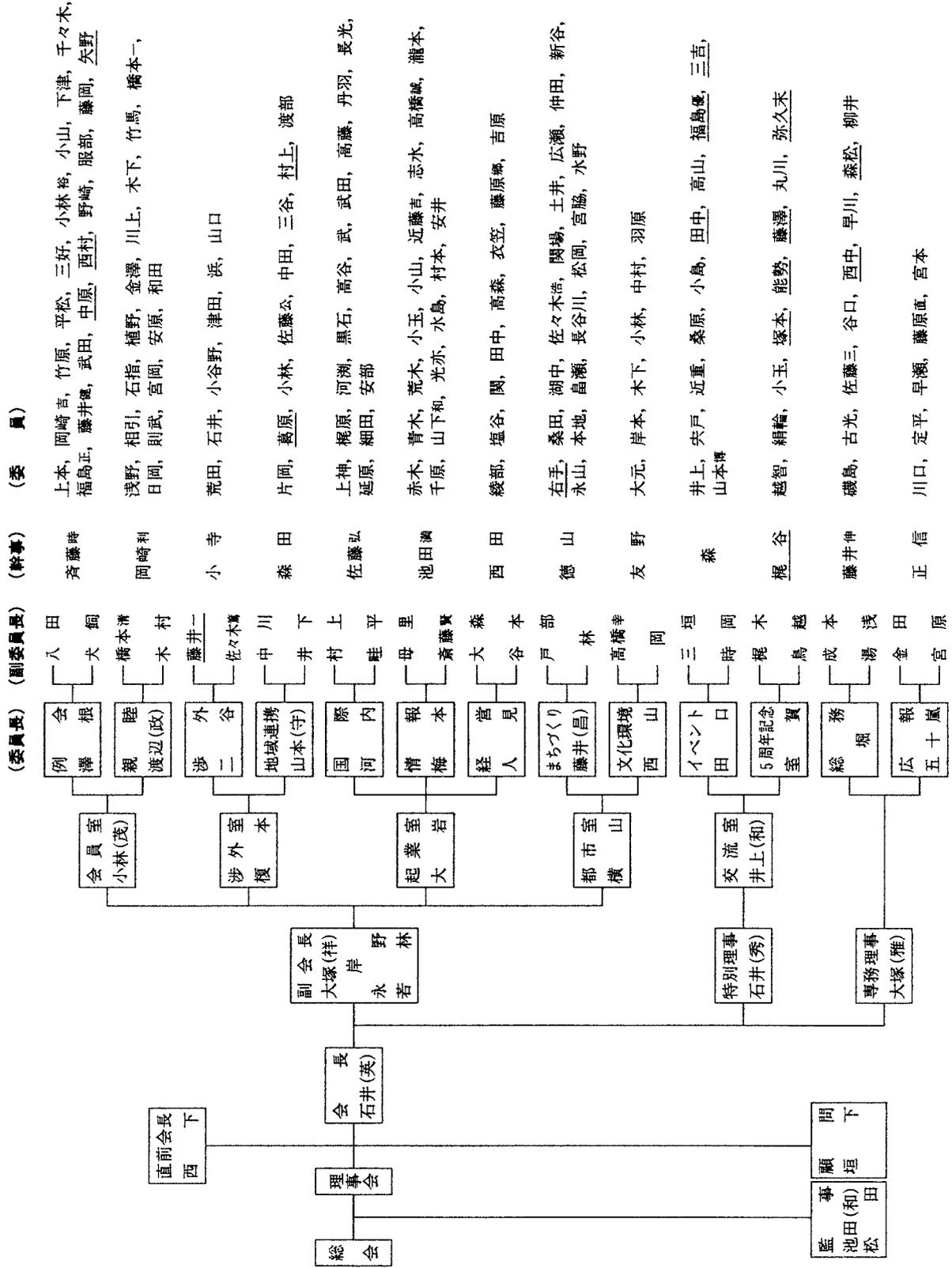
平成8年度 岡山商工会議所青年部組織図



# 平成9年度 岡山商工会議所青年部組織図

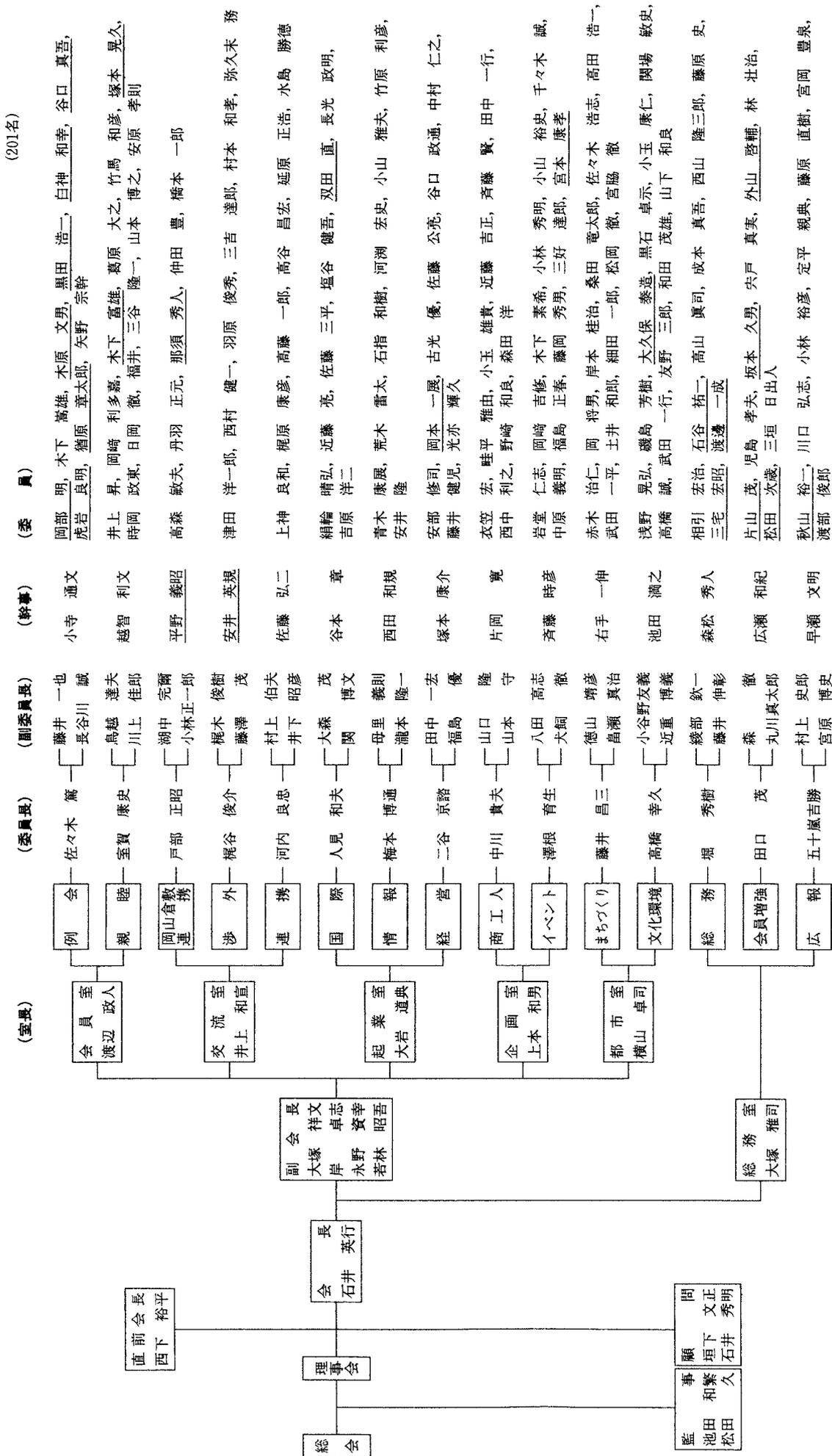


# 平成10年度 岡山商工会議所青年部組織図



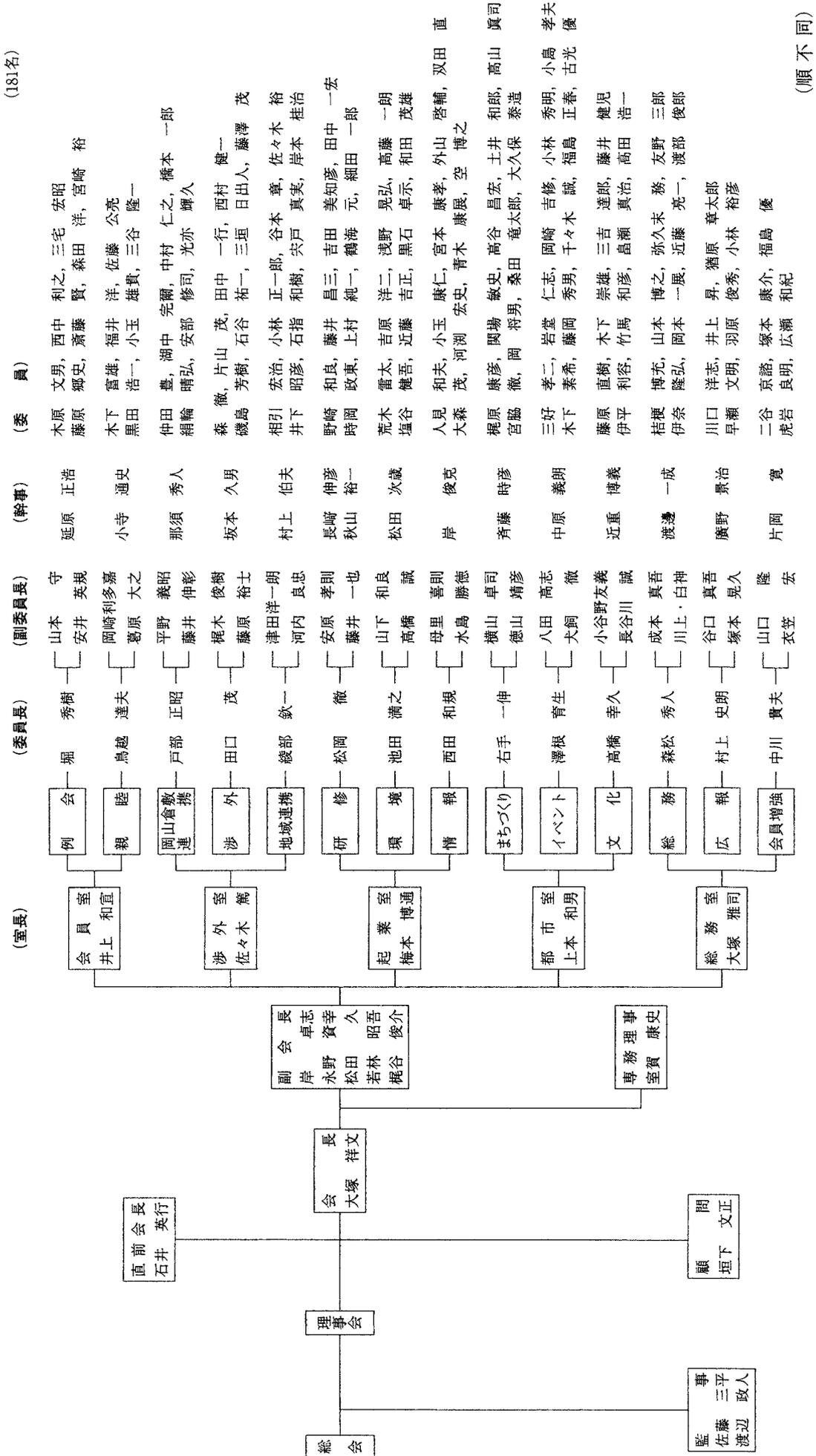
※アンダグライン上は新会員(17名)

# 平成11年度 岡山商工会議所青年部組織図

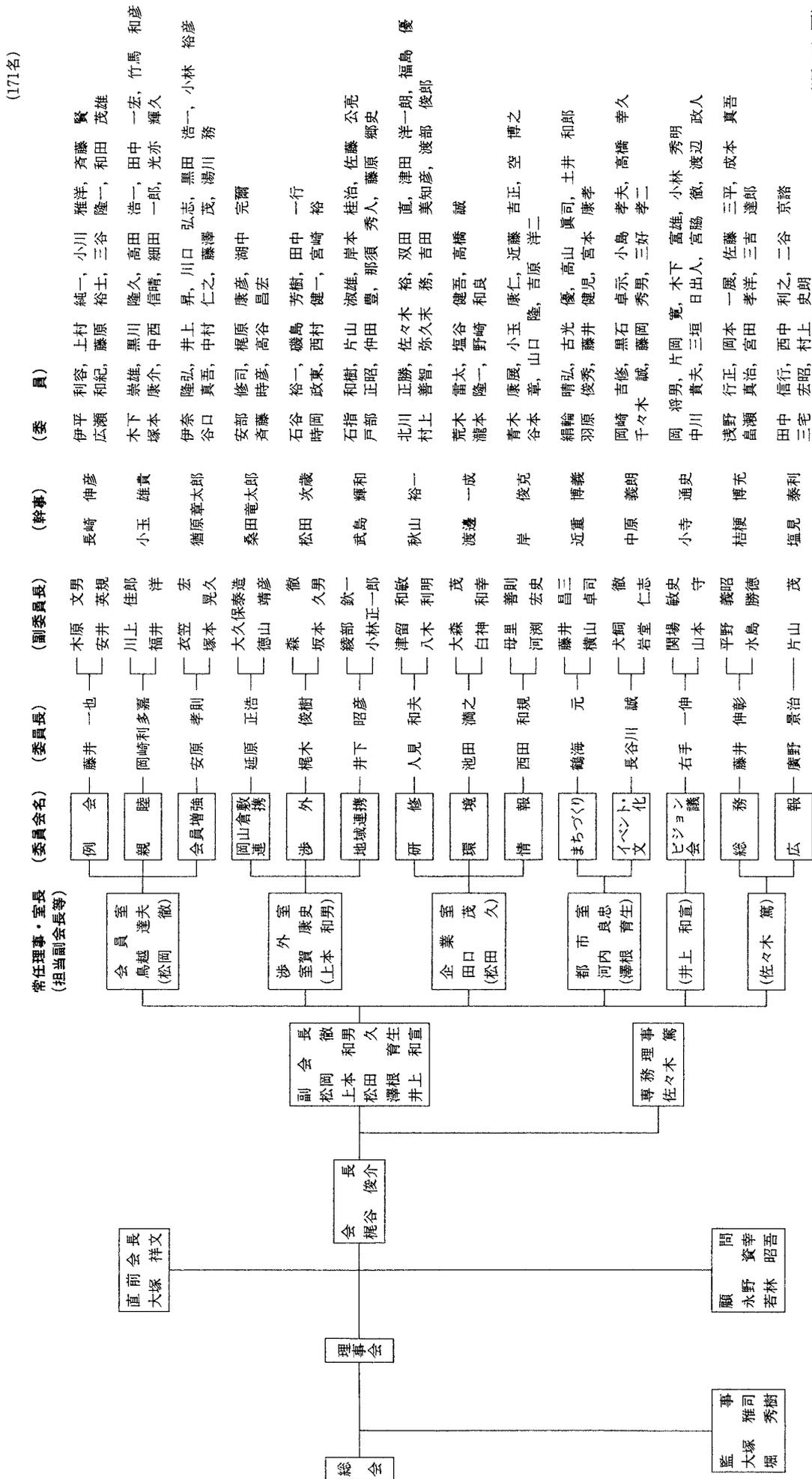


※アングライン上は新会員(24名)

# 平成12年度 岡山商工会議所青年部組織図

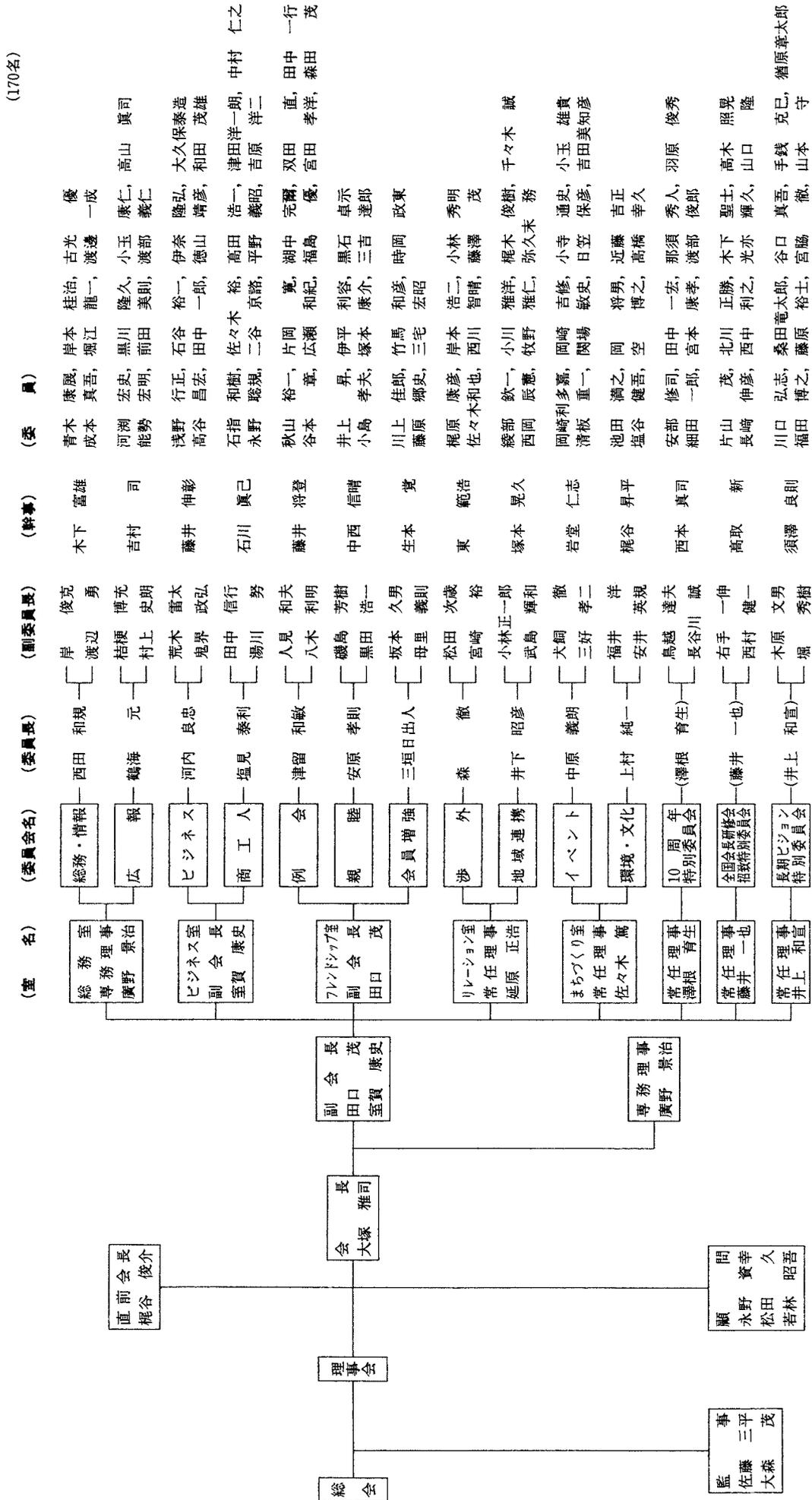


# 平成13年度 岡山商工会議所青年部組織図



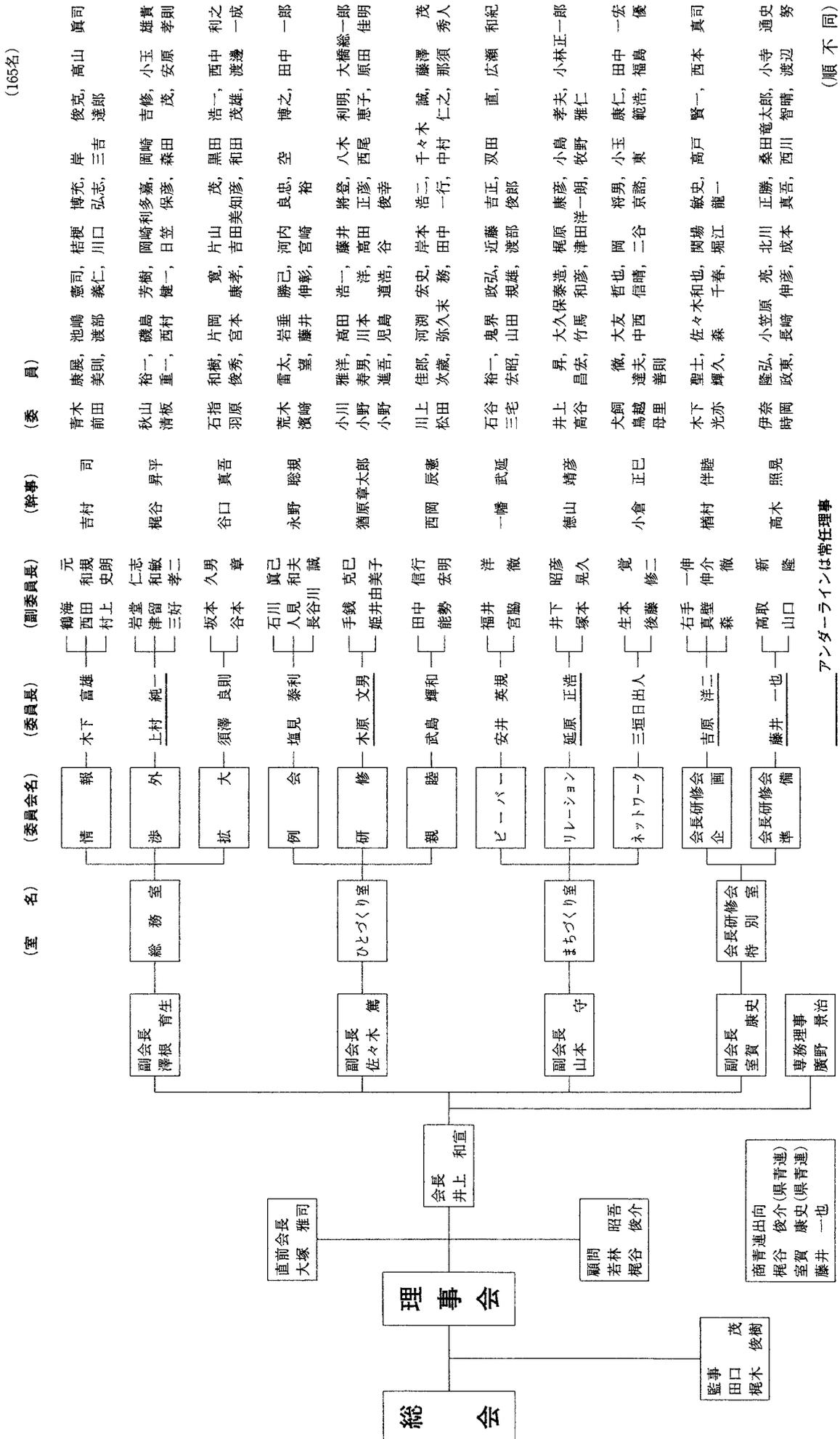
(順不同)

平成14年度 岡山商工会議所青年部組織図



(順不同)

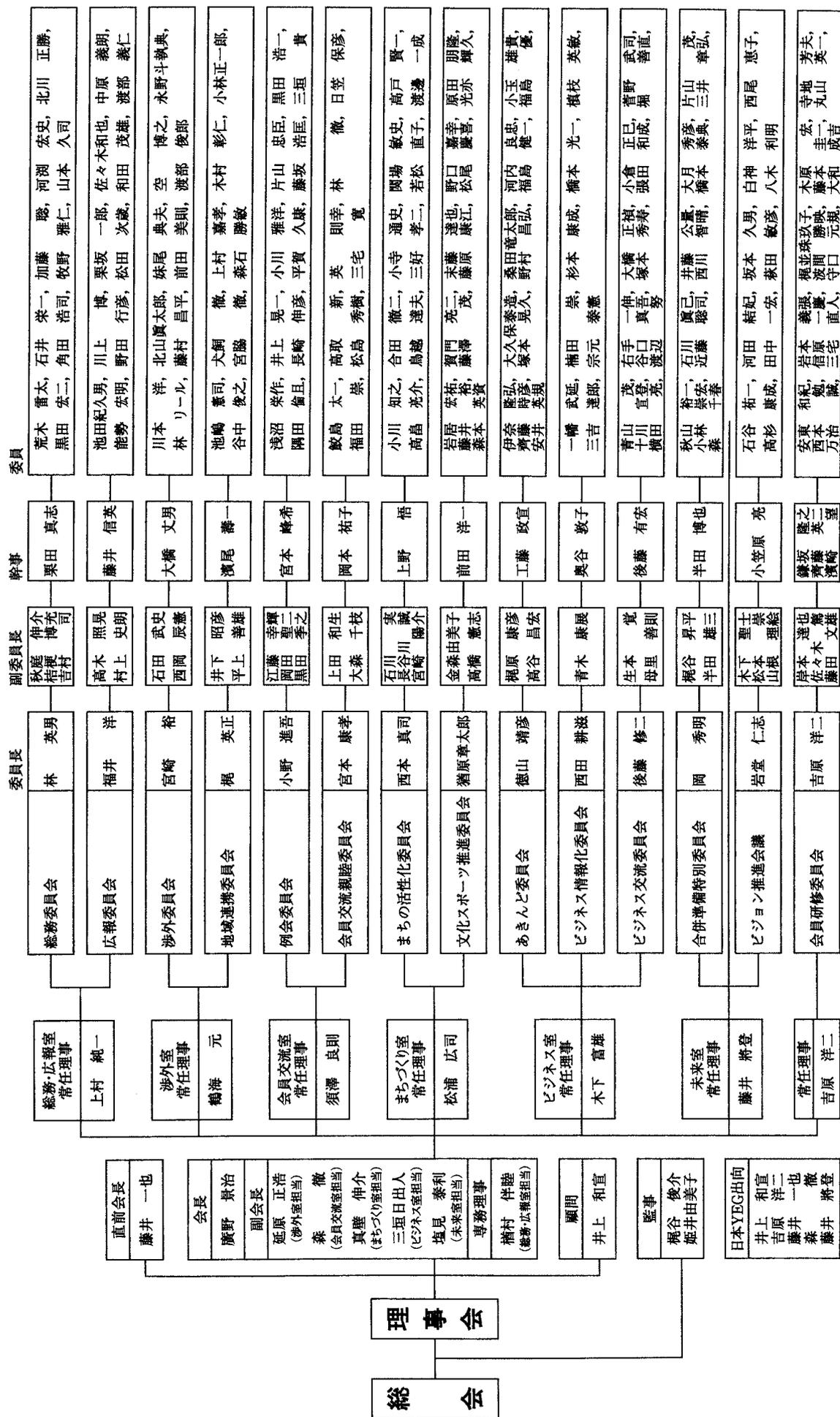
平成15年度 岡山商工会議所青年部組織図



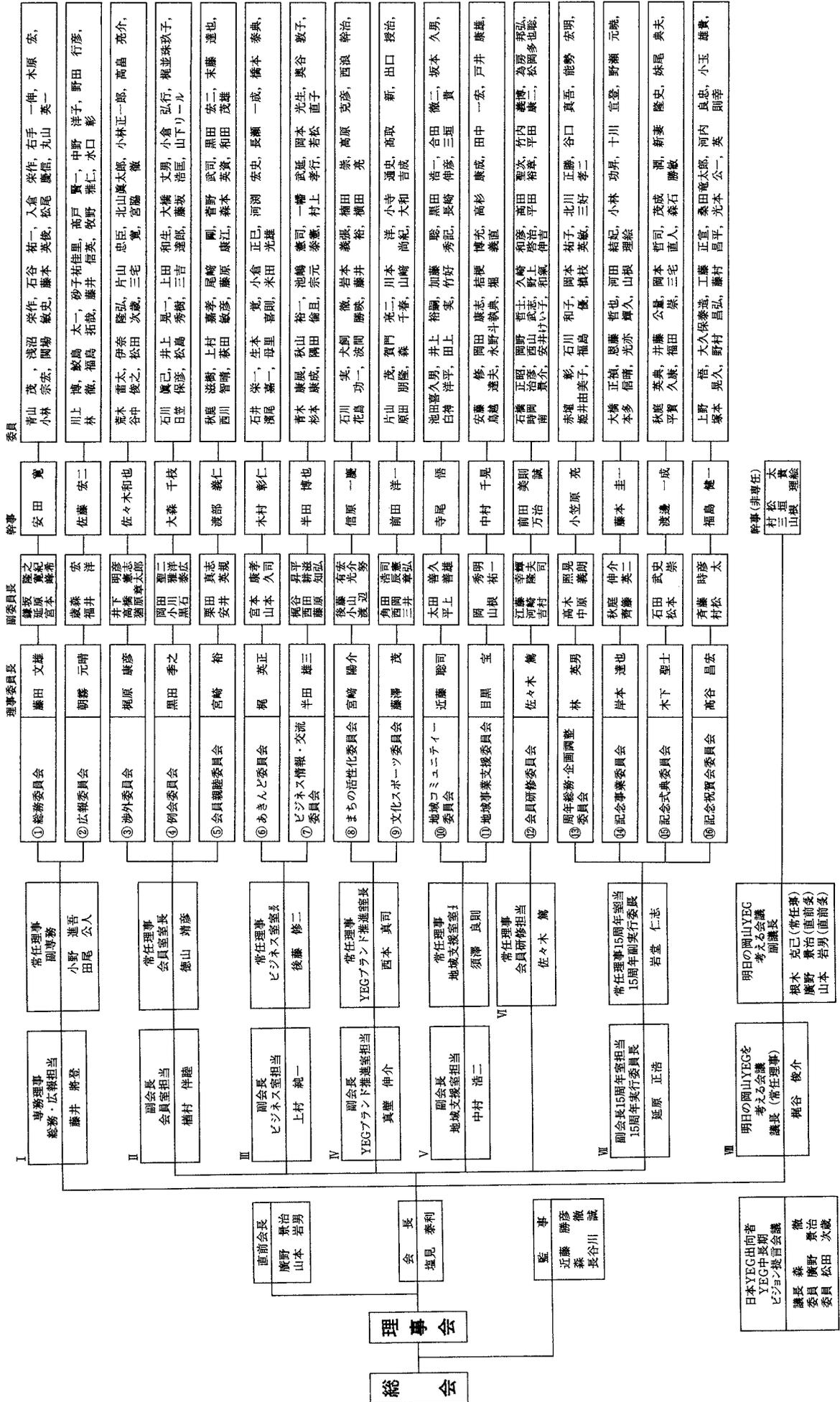




平成18年度 岡山商工会議所青年部組織図

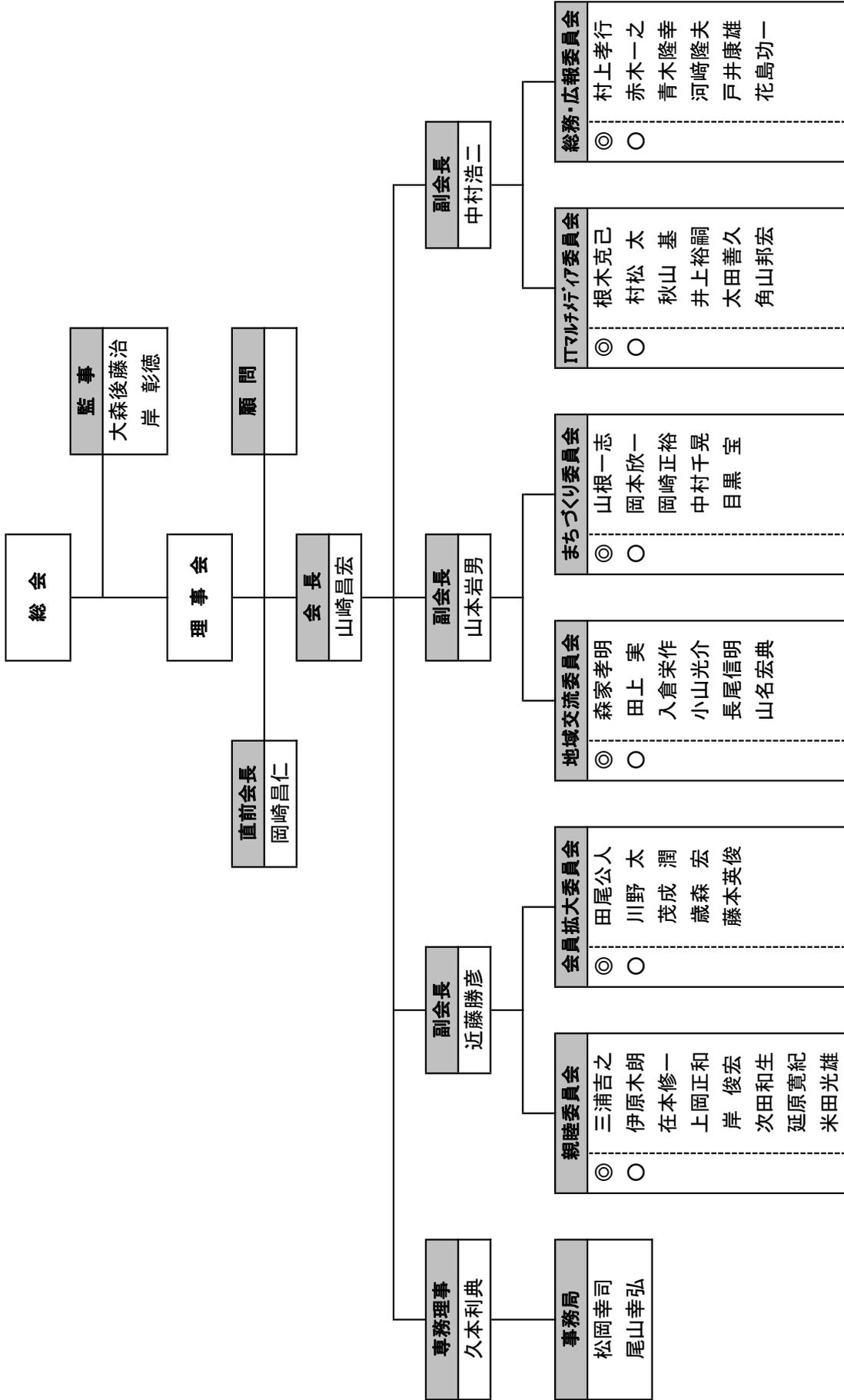


# 平成19年度 岡山商工会議所青年部組織図

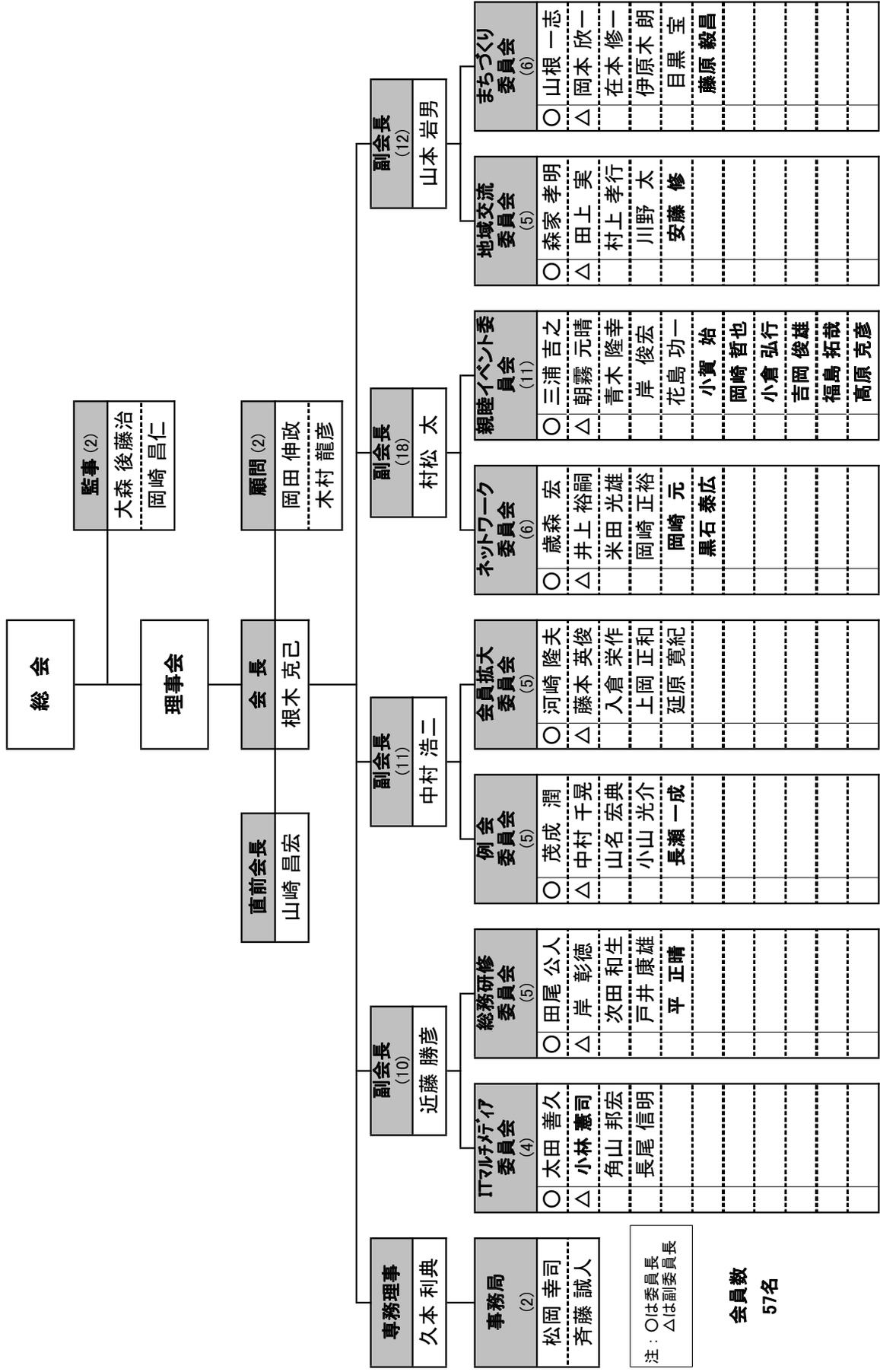


# 西大寺 YEG 平成14年度～平成18年度

平成14年度 西大寺商工会議所青年部組織図



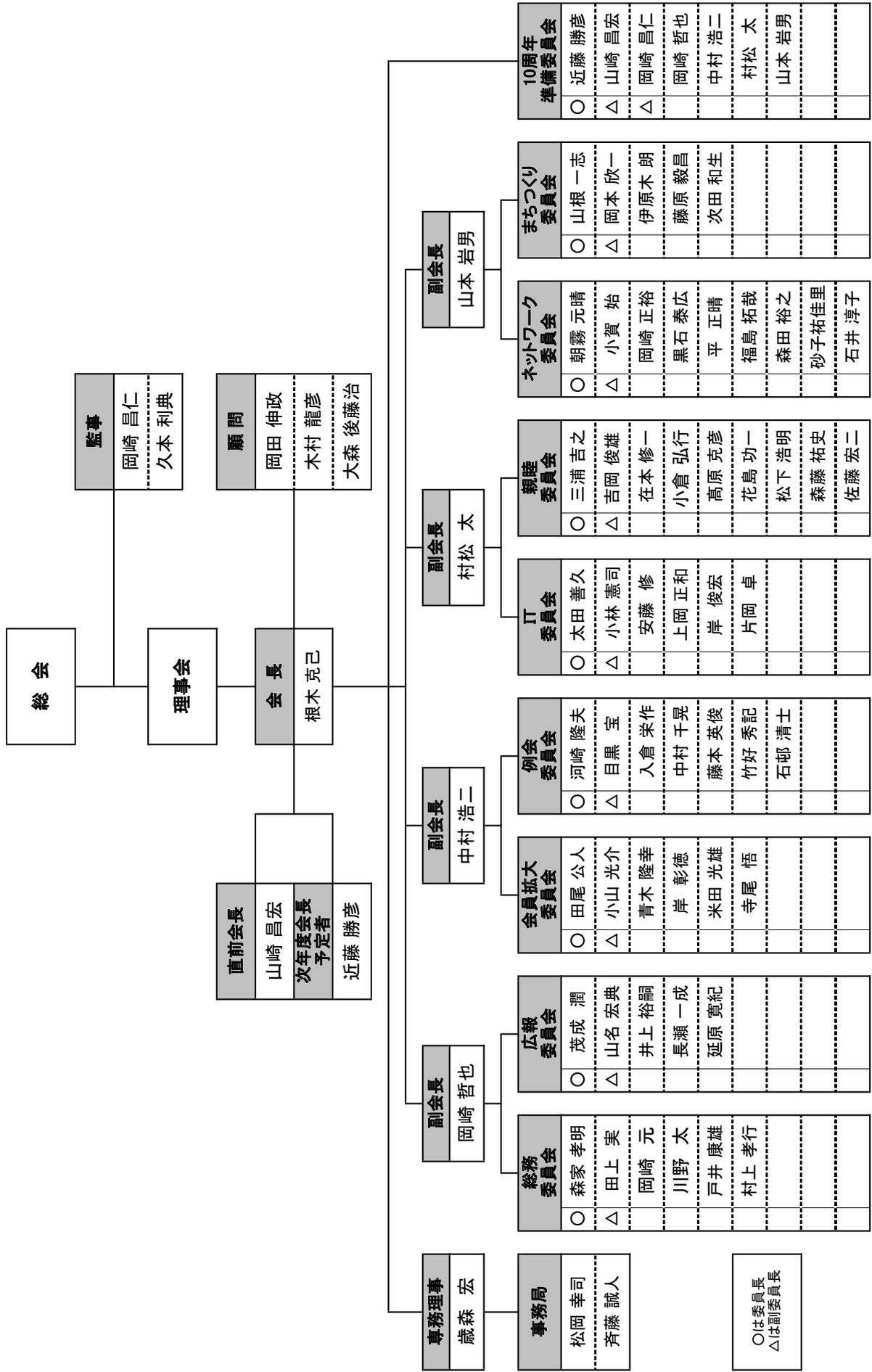
平成15年度 西大寺商工会議所青年部組織図



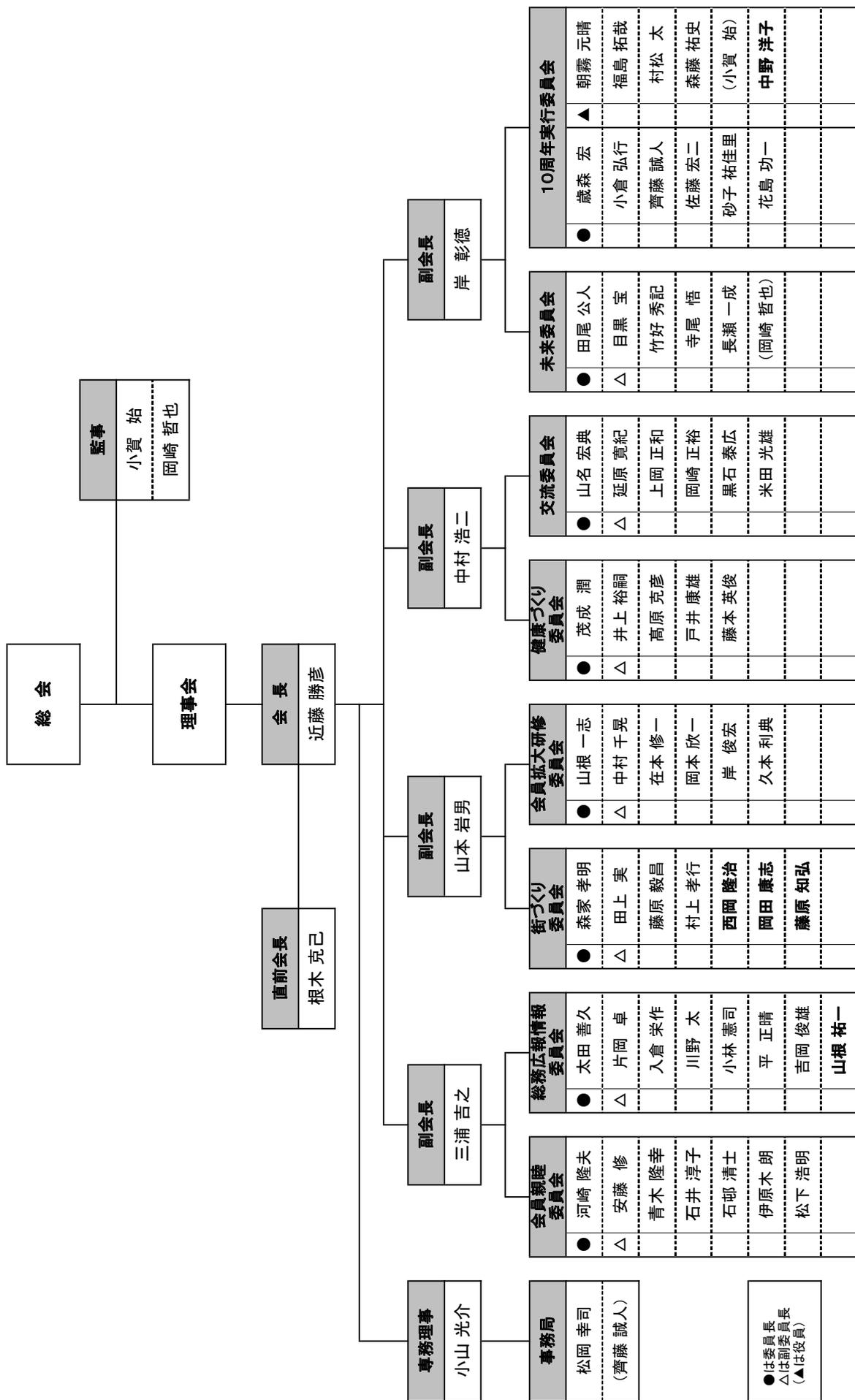
注：○は委員長  
△は副委員長

会員数  
57名

平成16年度 西大寺商工会議所青年部組織図

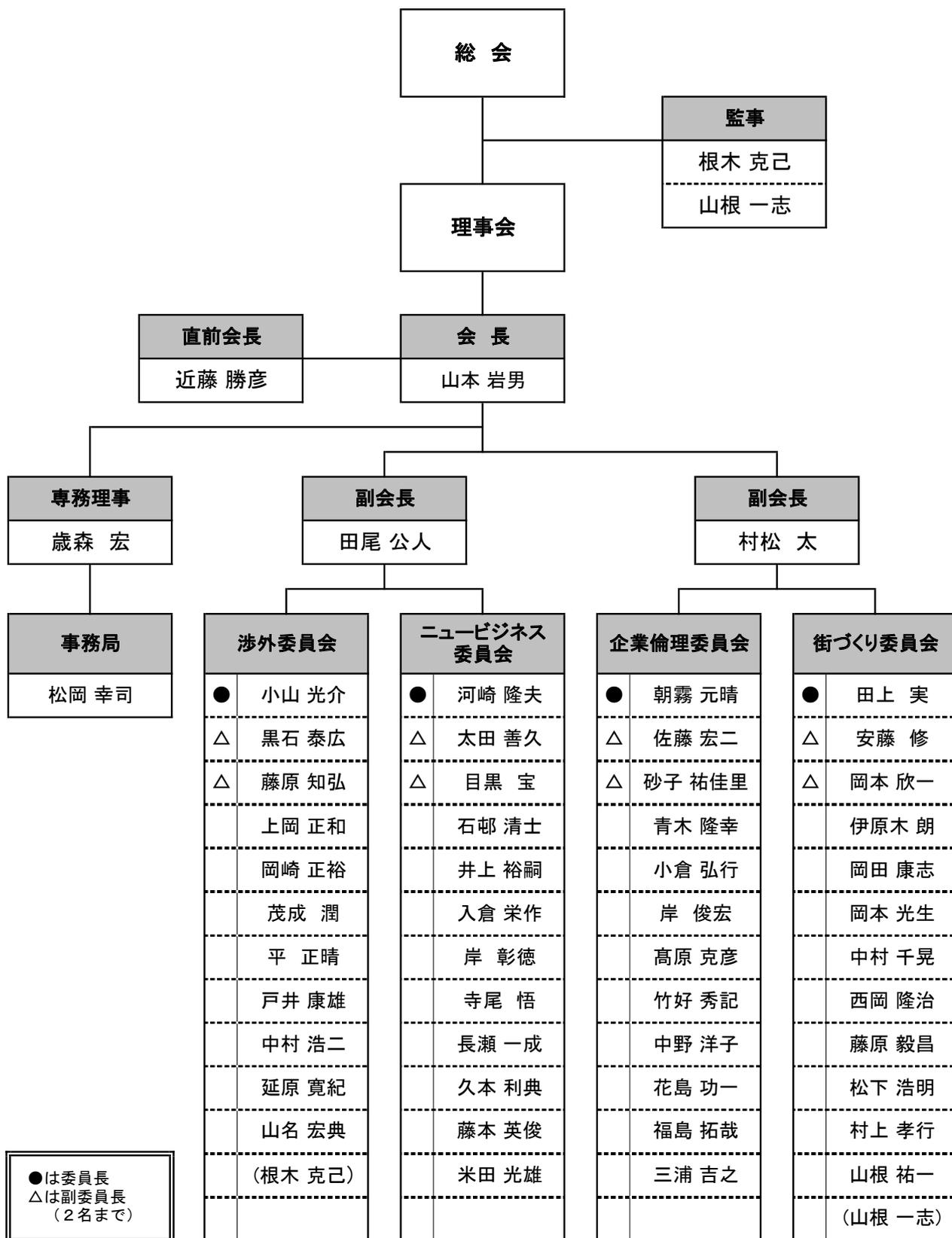


平成17年度 西大寺商工会議所青年部組織図



●は委員長  
△は副委員長  
(▲は役員)

平成18年度 西大寺商工会議所青年部組織図



## ● 4 事業の歴史

### 岡山 第22回全国会長研修会 岡山CONFERENCE

平成16年度に岡山Y E Gは、日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会（現日本Y E G）主催、第22回全国会長研修会の主管という、飛躍の大きなチャンスを得ました。

この研修会の目的は、各地の商工会議所青年部の会長、次年度の会長、事務局、そして、次世代のリーダーとなる意欲を持った会員を対象に、各単会のリーダーのスキルアップと、当面する課題等についての意見交換を行い、青年部組織の活性化と充実を図る事です。

その主催者の目的を達成するための最大限の努力は勿論ですが、主管する事によって岡山Y E Gの活性化と発展、そして、同じ岡山県内にある単会（岡山県青連）との一体感の醸成、この2点も、私達が主管する目的として大きなウェイトをしておりました。

岡山Y E Gの全メンバーは、目的達成のために様々な努力を惜しまず、特に以下の3点が特徴的な取り組みとして挙げられます。

#### 1. 全国会長研修会の開催目的の徹底的な追求

開催準備の手順、開催時期の検討、研修会としてのあり方（内容・P R方法・登録方法・参加対象者等々）などについて徹底的に研究し「参加者に最高の満足を」という基本コンセプトを最後まで貫きました。

#### 2. 副主管制度の導入

岡山Y E Gに所属する会員の商圏を考えると、近隣の単会との活発な交流は大きなメリットがあります。その推進のために全国会長研修会の主管を利用し、近隣の単会の方々と協力しながら準備を進めていく、全国初となる副主管制度を提案し実施しました。

#### 3. 主催者・主管・参加者の一体化

主催者との協議の場を多く持ち、主催者と主管の意見の調整を徹底的に行いました。

また、全国から時間とお金を使って研修に参加される皆様の要求や期待に沿った研修内容を作り上げるために、全国400単会の会長に対して多項目に及ぶ事前アンケートを実施し、100%回収しました。

詳細な成果は、事務局に保存している「開催報告書」に譲りますが、主催者・参加者・主管と副主管全ての目的が、非常に高いレベルで達成された全国会長研修会となりました。



## ■ 開催趣旨

私たちYEGは地域に根ざした企業家集団であり、豊かな地域を創造する無限の可能性と使命を担っています。

高度成長の物質文明、大量生産大量消費型経済は終焉を迎え、真の豊かさの追求と本来持ち合わせていた人間の尊厳を再認識する社会風土を重視する時代が到来しました。

このような時代を迎え、自らの連携の力を活用し自社企業を時代のニーズにマッチしたものに進化発展させ地域のリーダーとして愛する郷土を創造して行こうではありませんか。

あなたのリーダーシップでYEGは輝いていますか？

あなたの地域の会員はYEGに魅力を感じていますか？

あなたの地域の会員は企業家としての自信を持っていますか？

岡山CONFERENCEでは、全国3万人のネットワークを共有する事の価値を感じ、全国会長研修会の本質を踏まえ、集う参加者の意義と満足を実感できる研修会を目指します。

全国YEGの組織運営、事業展開、次年度への継承方法等の情報集積とフィードバックを早期より展開し、組織のリーダーとしての資質、知識の向上につとめ、具体的かつ現実的な真のリーダーシップのあり方と重要性を模索します。

共有された「情報と情熱」は全国各単会・各会員に伝わり、進化への自信と活力を生み出し会員企業・地域の発展に寄与し、地方から美しい日本創造の活力が提案される事を確信します。

## ■ 開催地キャッチフレーズ

# へたるな！こつからじゃ。

## REALIZE YOU あなたが叶えるYEG



## ■ 開催日時及び場所

平成17年 2月17日(木) 13:00～21:00  
平成17年 2月18日(金) 7:00～21:00  
平成17年 2月19日(土) 8:00～15:00  
ママカリフォーラム(岡山コンベンションセンター)  
ホテルグランヴィア岡山 ラヴィール岡山



## ■ 参加対象者

- ① 各商工会議所青年部の当該年度会長及び次期会長予定者
- ② 各都道府県商工会議所青年部連合会等の当該年度会長及び次期会長予定者
- ③ 上記①②の担当事務局員
- ④ 将来のY E Gを担う、熱意ある会員



■ 参加単会数及び人数      330単会      1163名

## ■ 研修内容及び成果

### ①全体研修会1部(全員参加)

全員を対象に、商青連会長・次期会長及び日本商工会議所常任理事の講演



### ②全体研修会2部(全員参加)

全員を対象に、ベネッセコーポレーション 福武総一郎氏の講演

### ③全国道府県青連サミット

ブロック代表理事と道府県青連会長が参加し、道府県青連のあり方と、ブロックや商青連(現日本Y E G)との理想的な形などについて意見交換した。

### ④事務局研修会(208名参加)

全国の単会や道府県青連の事務局を対象に、活発な活動をしている事務局の事例発表。経済産業省から「Y E Gへの期待と事務局のあり方」の講演。

商青連からは、IT化戦略についての講演と演習を行った。

### ⑤テーマ別研修会

全国の会長からいただいた膨大な量のアンケートを分析した結果、単会の規模により、抱えている問題や、会長がこの研修会に求めている内容が違うということにたどりつき、単会の規模別に5つのグループに分けて研修を行った。研修テーマ、導き出されたキーワード等は以下の通り。

#### テーマ1研修会【参加者 90名】

テーマ 「組織構築・組織の活性化」

対象者 会員数40名以下の単会

まとめ メンバーの増強と例会や事業への出席率向上に取り組み、会員のビジネスチャンスを増やすことが重要。

また、基本方針やスローガンを明確に持ち、会員への徹底が必要。

## テーマ2 研修会【参加者159名】

- テーマ 「単会運営・会員増強」  
対象者 会員数41名以上60名以下の単会  
まとめ 基本方針の徹底を図ることが、スムーズな単会運営につながる。魅力あるセミナー事業などが、出席率を向上させ、組織の活性化の第一歩となる。Y E GでのビジネスチャンスのP R強化が会員拡大の鍵となる。



## テーマ3 研修会【参加者147名】

- テーマ 「組織運営の強化・魅力ある青年部」  
対象者 会員数61名以上90名以下の単会  
まとめ ビジネスチャンスを創出する努力。  
若いメンバーをどんどん役員などに登用する。  
リーダーシップを磨く仕組みづくり。



## テーマ4 研修会【参加者85名】

- テーマ 「長期ビジョン・地域との関わり」  
対象者 会員数91名以上120名以下の単会  
まとめ 単会がビジョンを持つことで、会員の意識は高揚する。  
Y E Gと地域を考える→行政や他団体とのパイプ役→地域の活性化→ビジネスチャンスの拡大。活動をこの流れで考える。



## テーマ5 研修会【参加者61名】

- テーマ 「Y E Gの意義・地域の基幹単会の役割」  
対象者 会員数121名以上の単会  
まとめ メンバー間のネットワークの拡大。  
地域活性化の担い手という認識。  
地域で信頼される経済団体になる。



## ■ 総 括

「トップリーダーの会長が、基本方針や単会のビジョンを明確にし、メンバー一人ひとりに周知する努力をすることが、会員の意識を高揚させ単会を活性化させる。そのような環境の中で行われるY E G活動は輝き、行政や他団体とともに地域を活性化させ、最終的にはY E G会員のビジネスチャンスの拡大に寄与し、企業経営や置かれている地域の可能性に、自信を取り戻す」これが、岡山Y E Gが全国の会長や次期会長、そして熱意ある会員の皆さんへ問いかけ続けたことを、この岡山C O N F E R E N C Eで真剣に議論された結果、導き出された答えとなりました。

同時に、岡山Y E Gの活性化、岡山県青連の交流と協力体制の強化、という大きな成果を上げることが出来ました。

また、この全国会長研修会の準備から実施に至るまでの期間に、岡山Y E Gのリーダー達の素晴らしさ、このチャンスを与えてくださった先輩方の存在、岡山という街の可能性の大きさ、など、岡山Y E Gのメンバーでありその中で活動が出来ている事を「誇り」に思える、大きな気付きを得ることが出来た「第22回全国会長研修会岡山C O N F E R E N C E」主管でした。

## 第23回全国会長研修会 岡山CONFERENCE 事業概要

主催者	日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会			
主管	岡山商工会議所青年部			
副主管(今大会が初の制度)	岡山県商工会議所青年部連合会・津山Y E G・玉島Y E G・玉野Y E G・井原Y E G・総社Y E G・備前Y E G・新見Y E G・児島Y E G・西大寺Y E G・高梁Y E G・倉敷Y E G・笠岡Y E G			
参加単会数	330 単会			
参加人数	1163 名			
事前アンケート回収率	100% (400 単会)			
ブロック別参加率	1 位東海ブロック (94.1%) 2 位四国ブロック (93.1%) 3 位中国ブロック (88.8%)			
大会で開催した会議	22 回 (主に主催者関係の会議)			
研修会	9 種類 ※別項に詳細			
式典	2 回 (開会式・閉会式)			
大懇親会	3 回 (前泊者懇親会・大懇親会・事務局懇親会)			
エクスカージョン	2 コース (倉敷美観地区&チボリ公園コース・西大寺会陽コース)			
物産展	2 日間 19 店 (いのししラーメン・蛸飯・鯖寿司・牡蠣汁の振る舞いサービス)			
その他の催し	Y E G 大賞公開審査・ビジネスプランコンテスト発表・岡山市長表敬訪問・岡山商工会議所表敬訪問・マスコミ発表・会場間の徒歩移動 (夢の懸け橋含む)			
会場	ママカリフォーラム (主会場)・ラヴィール岡山・ホテルグランヴィア岡山			
研 修 会	全体研修会 1 部	参加者	全 員	16 年度会長総括・17 年度会長所信・日商常任理事講演
	参加者			
	全体研修会 2 部	参加者	全 員	基調講演 講師 福武總一郎 氏 テーマ 「志という名の翼を広げて」
	参加者			
	テーマ①研修会	参加者	90 名	テーマ 組織構築・組織の活性化 対象者 会員数 40 名以下の単会 基本方針やスローガンの作成並びに会員への浸透。会員拡大・事業の出席率向上などをキーワードにディスカッションを行った。
	テーマ②研修会	参加者	159 名	テーマ 単会運営・会員増強 対象者 会員数 41 名以上 60 名以下の単会 基本方針や事業計画の作成。卒業年度の再考も含めた会員拡大等をキーワードに、その具体的な手法なども意見交換が行われた。
	テーマ③研修会	参加者	147 名	テーマ 組織運営の強化・魅力ある青年部 対象者 会員数 61 名以上 90 名以下の単会 活気ある委員会・魅力ある例会・人材育成等をキーワードに、魅力ある青年部作りや組織運営の手法などについてディスカッションを行った。
	テーマ④研修会	参加者	85 名	テーマ 長期ビジョン策定・Y E G と地域・リーダーシップ 対象者 会員数 91 名以上 120 名以下の単会 目的達成のための戦略・自己啓発・地域への経済効果等をキーワードに、単会の方向性と地域との関わり方を模索した。
	テーマ⑤研修会	参加者	61 名	テーマ Y E G の意義・地域の基幹単会の役割 対象者 会員数 121 名以上の単会 地域が求める Y E G ・メンバーが求める Y E G 。全国組織・行政・他団体との連携等をキーワードに議論した。
	全国道府県青連サミット	参加者		テーマ 道府県青連のあり方と、ブロックや商青連との理想的な形などを主に意見交換された。 対象者 ブロック代表理事・道府県青連会長
	事務局研修会	参加者	208 名	内 容 事務局事例発表 (大船渡 Y E G ・気仙沼 Y E G ) 県青連事例発表 (福島県) 講演「Y E G への期待と事務局のあり方」(経済産業省課長) 講演演習「商青連の I T 化戦略の狙い」(商青連総務委員長他)
		参加者		対象者 単会事務局員



# 1000人が出会う Hey! Say! Cafe!

## 1. 事業の企画趣旨

現在我々の置かれている社会の問題の一つに、少子高齢化という問題がありますが、ここ岡山においても、この急変する人口比率は深刻な問題であります。

少子高齢化の進む現状を改善すべく、新しい命の創造に向かい、適齢期の未婚者数の人口比率に着目し、既婚者比率を上げ、晩婚化の流れを変えていく試みを、労働人口増加に繋がる第一段階と位置づけて考えます。まずは適齢期を迎えて、出会いの機会に恵まれない結婚を希望されておられる方々に、安心して出会いの出来る場を提供し、人生のよき伴侶を見つけてもらい、地域の新しい命を育ててもらい、少子対策につなげ、元気な岡山を対外的にもピーアールし、地域の活性化に繋がりたいと考えます。アナログ的な出会いのきっかけを提供し、足元を見つめなおし、宝物を見つけてもらいます。

## 2. 事業の目的

少子化・晩婚化が顕著となってきた昨今、20歳から40歳代までの独身男女が結婚について真剣に考え、同時に安心して多くの人と出会うことのできる機会を提供することにより、参加者が将来結婚することで様々な経済効果を生み出し地域社会全体に活力を与えることを目的とします。

### (主要目的)

- ①参加者へ出会いの場の提供
- ②参加者のコミュニケーション能力の向上
- ③複数単会で連携し、共同事業とすることで、事業の拡大・広域化

## 3. 事業の経緯

- ・2005.11.20 平成17年度1000人が出会う Hey! Say! Cafe! (会場：岡山コンベンションセンター／962名)
  - ・2006.02.18 第5回 Y E G 大賞グランプリ獲得 (第23回全国会長研修会のほりべつ会議)
  - ・2006.12.10 平成18年度1000人が出会う Hey! Say! Cafe! (会場：岡山コンベンションセンター／979名)
  - ・2007.09.30 平成19年度1000人が出会う Hey! Say! Cafe! (会場：倉敷チボリ公園／723名)
- ※人員は参加者・スタッフ・来賓などこの事業にかかわった人数

## 4. 事業の概要(平成19年度)

事業名称：平成19年度1000人が出会う Hey! Say! Cafe!

日 時：平成19年9月30日(日)

13:00～13:50 参加受付

14:00～17:00 オープニング／フリートーク／エンディング

場 所：倉敷チボリ公園：アンデルセンホール

参加者：585名(男287名：女298名)

男性参加者 平均年齢 32.79歳 (21歳 ～ 49歳)

女性参加者 平均年齢 31.55歳 (21歳 ～ 43歳)

スタッフ：127名(受付／誘導警備／会場／カフェスタッフの4部会・5 Y E G で運営)

岡山 80名 倉敷 19名 総社 12名 玉島 9名 児島 7名 その他 11名

募 集：①参加登録システム

モバイル版ホームページの作成、インターネット及び携帯ウェブサイトからの登録可能なシステムを構築し、募集管理の負担軽減を図った

② Y E G 紹介エントリー 合計251名

岡山 130名 倉敷 28名 総社 46名 玉島 33名 児島 14名

③事前説明申込会

一般参加者(Y E G 紹介以外)のエントリー条件として説明会を開催。

事業の趣旨、心構え、ドレスコード等の説明及び公的身分証明書による本人確認

会 議：5 Y E G 有志が中心となって準備のための実行委員会4回及び反省会1回を行った。

## 5. 事業の総括

### (1) 平成19年度の特徴・前提

- ①持続可能なスキームを目指して単会事業費を使わない資金計画とした。
- ②5単会共同で事業実施した。
- ③参加者・スタッフとも組織的な動員をかけないこととした。

参加者：募集計画人員500名に対して585名の参加があり、出会いの場づくりに成功。  
Y E Gメンバー以外の問い合わせ多数、事業に対する関心が高い。  
年齢の幅について25～45に絞ってはどうか。

会場：倉敷チボリ公園にしたことで事業終了後の公園散策や食事などとてもよかった。

受付：参加受付についてさらに負担軽減策を講じる必要がある。

事前説明会：全員に参加していただくのがベストである。

オープニング：入場行進を割愛し、フリートークに時間を多く割り当てることができた。

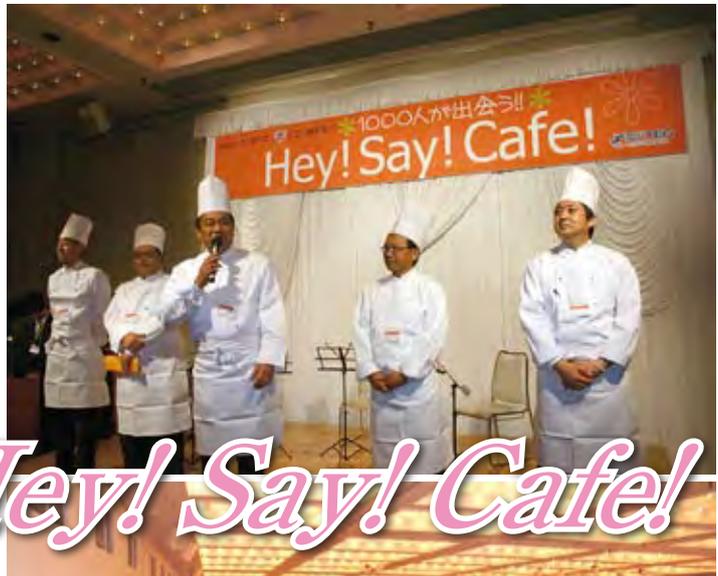
フリートーク：参加者を動員しなかったためか、いままでにない熱気あふれるフリートークとなり、参加者のコミュニケーション能力の向上にもよい環境だった。

共同開催：初めて5単会の共同事業として事業の拡大・広域化を達成するとともに実行委員会への積極的な参加など実施過程も含めて大変意義ある結果と評価している。

### (2) 本事業の今後あるべき姿

過去3回実施したHey! Say! Cafe!事業を通じて、参加者の状況やスタッフの達成感や他の地域での開催要望など、社会的な評価も含めて客観的にも評価の高い事業であります。事業の継続を多くの参加者やスタッフが望んでいることを踏まえて、以下のとおり提言します。

- ①岡山Y E Gが主催しない枠組みで事業を継続する。
- ②主催は「Hey! Say! Cafe!実行委員会」とし、商工会議所青年部はこの事業を後援する。
- ③賛同いただけるY E Gにも後援の形で応援いただく。
- ④参加者の企業からの動員やスタッフの動員は行わない。
- ⑤事務的負荷の低減のため期間限定で事務局員を置くことが望ましい。
- ⑥参加者全員に事前説明会受講を要件とすることが望ましい。
- ⑦参加年齢を25から45までとすることが望ましい。



# Hey! Say! Cafe!



# スポーツによるまちづくり事業について

## 沿 革

2002年12月1日岡山Y E Gの10周年の際に記念事業としてプロ野球28会（にっぽちかい）を呼び、少年野球教室を開催した。

2006年6月19日に、四国アイランドリーグを立ち上げた石毛コミッショナーによる講演会を開催。

2006年8月20日に、四国アイランドリーグ公式戦を岡山に誘致し開催（2400名）少年野球教室（500名）を開催した。

こうした事業実施の中で岡山の野球チームの試合が観たい、あるいは岡山のチームが欲しい、との声から下記の事業目的を整理し、平成19年度のスポーツ事業を実施することとなった。



## 平成19年度スポーツ事業について

### 1. 事業の目的

岡山選抜チーム対茨城ゴールデンゴールズの試合を開催し、観客にスポーツの楽しさや素晴らしさを伝え、スポーツによるまちづくりを考えるきっかけを提供し、市民が一丸となって応援することから生まれる岡山市民共有の誇りづくりのベースを構築する。

同時に少年野球教室を開催することで、未来を担う子供たちが精神的・技術的な指導を受けることのできる環境のすばらしさを感じていただき、プロチームの必要性について社会に提言する。

### 2. 事業の内容

#### (1) 前夜祭 レセプションの開催300名6/9 19:00

岡山選抜チーム、茨城ゴールデンゴールズ両軍の監督選手約60名を迎え、岡山商工会議所からは、岡崎会頭、若林副会頭、窪津専務等々の出席をいただき、スポンサー各社からの参加を中心に総勢約300名でのレセプションとなった。

萩本監督のトークが冴え、両軍のエールの交換や試合への意気込みが語られ、おおいに盛り上がった。

#### (2) 「八木監督などによる少年野球教室」251名6/10 10:00~11:00

球種（ソフトボール・軟球・硬球）を問わず、ポジションについてもいづらか分けをしながら、八木監督を中心に小4から中3までの251名の少年たちと野球教室を開催した。

#### (3) 「チーム岡山対茨城ゴールデンゴールズ」試合開催6/10 13:00~

観客数	4,850名
岡山Y E G	91名
ボランティア	56名
参加総数	4,997名

天候不順によって試合開始が約30分遅れとなったが、白熱あり笑いありの楽しめる野球を堪能した。

### 3. 事業の総括

#### (1) 観客数・参加数

動員目標4,000名に対して4,850名を達成でき、野球観戦の場づくりとして支持を受けたものと評価できる。また、事業を通じて知ったスポーツボランティア56名の参加についても大変意義ある結果と評価している。

#### (2) 試合当日のアンケートの実施 回収数1,083名 (23.3%)

##### ・参加者属性

男女比は男60%女40%

10代、30代、40代の順に回答者が多く親子世代のシェアが大きく「子供たちのために」が参加属性からも顕著である。

##### ・イベント認知

新聞・テレビ・ポスターの順でほぼ同数の回答  
その他は知人からの告知が多いと思われる。

##### ・交通用具

自動車55%電車20%バス6%その他19%は自転車、徒歩など想像以上に自動車利用が多い。

##### ・同伴者

家族61%友人17%野球仲間16%と順当な回答印象である。

##### ・好きなスポーツ

野球77%サッカー9%ゴルフ7%

野球観戦者へのアンケートなので野球が多い予測どおり圧倒的であった。

サッカー、ゴルフなど他のスポーツを嗜好する人も多く観戦しており、嗜好と観戦行動とは必ずしも一致しない。他のスポーツが好きな人も互いに観客となる！

##### ・地元のチーム

思う89%思わない2%という結果で、ほとんどの人が地元チームを希望した。

#### (3) 反省事項

Y E Gは、年度を単位として事業をすすめているため、準備期間が少なく大変だった。



### 4. 提言（事業総括に伴う対内提言）

「都市の文化としてのスポーツ」のために下記事項を提言する。

#### (1) 岡山県総合グラウンドを「スポーツパーク」にステップアップ

抜群の立地と、多くのスポーツに対応可能なその多様性を再評価し、市民へ発信する。

スポーツパークとして、市民のスポーツ文化の聖地とする。

##### ・駐車能力のレベルアップ

国体対応のため改修工事が行われたことに伴い駐車能力が2500台→600台と激減している。

今回の事業でも近接する2箇所の空き地（計6300㎡）を借用した。

有料（一日ワンコインなど）でよいから最低2000台の駐車場整備を要望する。

・老朽施設のレベルアップ

バリアフリーの推進

野球場では車椅子席が岡山Y E Gからの要望で一部実現した。

コストを掛けず、できるバリアフリー化を推進すべき。

・応援環境のレベルアップ

全ての新幹線が止まるJ R岡山駅から徒歩15分でアクセス可能な沿道に商店街、商店、店舗、企業やG Sを巻き込んだ応援環境を実現する。

・観戦マナーのレベルアップ

スポーツ観戦のなかで、「市民としての誇り」を持って応援することを体験しながらモラルや社会性を学んでいくべき。

(2) 球団作りのための準備組織の設立

Y E Gの実行委員会は発展的に解散し、Y E Gとは別にチーム設立に向けた推進組織「チーム岡山球団設立推進委員会」の設立を図る。

今後の活動は推進組織を中心として推進することとし、Y E Gはこれを応援する。

この推進組織に引き継ぐこととし、スポーツ文化の推進に役立てていただく。

(3) スポーツチーム協議会（応援組織）の設立

ファジアーノ、シーガルズ、ベルやチーム岡山さらに今後生まれ出ずる新たなスポーツチームが集い、情報交換のレベルから相互協力を目指す「プロ」スポーツチーム協議会を設立し、多様なスポーツを繋ぐ輪をつくる。

各スポーツチームは、現在応援組織の拡大充実ができず悩んでいる。

自らのチームの応援体制づくりを自ら行うことは形として望ましくない。

Y E Gの役割として、応援団（応援組織・後援会）の立ち上げや盛り上げに関して地域の生活者にまでサポート体制を拡げることにより大きな役割を持ちつつ応援していく。



## あきんど塾

地方の経済活性化には地域に根を張った商工人（あきんど）の活性化が不可欠です。

メンバーに、より元気な商工人（あきんど）になってもらうためにあきんど塾では地域を取り巻く激変する経営環境の情報発信、まちの活性化に必要な事業の気づき、経営者・経営幹部としてのスキルアップ、商工会議所の有効的活用方法を目的としてセミナーを実施しております。

また親会との連携事業により、親会との合同セミナーだけでなく、企業の経営力強化、助成金の取得方法等を目的としたセミナーも実施しております。

メンバーからのセミナー内容のリクエストが多ければ多いほど、より良いあきんど塾が開催できますのであきんど塾の活性化にはメンバーからの意見が必要不可欠です。



### あきんど塾の歴史

年 度	月 日	テ ー マ	講 師	参加者
平成12年度	5月22日(月)	新入会員ガイダンス	石井英行直前会長・大塚祥文会長	31名
	7月25日(火)	経営者の資質について	大塚祥文会長	30名
		特許活動と検索	(株)発明協会 佐藤信吾氏	
	9月28日(木)	補助金あれこれ	岡山県新技術振興財団 事業部長 飯田永久氏 岡山県工業振興課地場産業係 主査 山口 透氏	29名
		税理士から見た調査のポイント	税理士 森松秀人氏	
	11月27日(月)	時代を動かすリサイクルの仕掛け人 会社の創業について	岡山県議会議員 姫井由美子氏 梅本博通起業室長	27名
2月21日(水)	副委員長・幹事研修 あきんど塾を振り返って	岸 卓志副会長 松岡 徹研修委員長	41名	
平成13年度	5月21日(月)	YEG発足の経緯・YEG会員の役割について	YEGOB 近藤典博氏 顧問 永野資幸氏	33名
	7月9日(月)	インターネット講習会	西田耕滋情報委員長	27名
	9月10日(月)	矛盾だらけの世の中	(株)さえら 代表取締役 木谷忠義氏	44名
	11月14日(水)	岡山市環境パートナーシップ事業	岡山市環境調整課長 内藤元久氏	27名
	1月28日(月)	地域の街づくり	日本政策投資銀行地域企画部 調査役 藻谷浩介氏	46名
平成14年度	6月10日(月)	売れる商品・サービスを生み出す経営者の特徴	ビジネス情報誌「アントレ」 編集長 野村 滋氏	71名
	8月19日(月)	わが社の経営数値が手に取るようにわかる手法を教えます	税理士・中小企業診断士 馬越晃一氏	78名
	9月25日(水)	たった一度の人生 営業(仕事)を楽しみませんか	ソニー生命保険(株)岡山支社 副部長 小野進吾氏	45名
	11月21日(金)	リーダーシップ研修会	元広島商高 野球部監督 川本幸生氏	45名

年 度	月 日	テ ー マ	講 師	参加者
平成15年度	6月16日(月)	デフレこそチャンス!他社との差別化!	(株)誠美システム研究所 代表取締役 洲脇誠司氏	74名
	7月14日(月)	起業家精神そして元気の基	オーティス(株) 代表取締役 佐山修一氏	83名
	9月16日(火)	なるほど!孫子の兵法	(株)エフエス技房 代表取締役 藤田茂文氏	72名
	10月27日(月)	取引先が倒産!!あなたは どうしますか	安田寛法律事務所 代表 安田寛氏	89名
	1月13日(火)	全国のベンチャービジネス最前線	起き上がれニッポンDREAM GATE PROJECT 編集長 野村 滋氏	会員92名 県下青年部38名
平成16年度	6月15日(火)	県下の経済状況について	(財)岡山県産業振興財団 副理事長 青井賢平氏	97名
		中小企業施策の現状と課題	経済産業省中国経済産業局 中小企業課長 湯浅憲義氏	
	8月17日(火)	武士道と経営ー岡山の武将に学ぶ	茨城大学人文学部 助教授 磯田道史氏	81名
	12月14日(火)	強い中小零細企業にするために	(株)ボクテン 代表取締役 景山良康氏	90名
平成17年度	5月25日(水)	経営幹部のための財務講座パートⅠ	石井栄一公認会計事務所 代表 石井栄一氏	30名
	6月20日(月)	いのち喜ぶ経営	小橋工業(株) 代表取締役 小橋一郎氏	29名
	7月13日(水)	ビジネスチャンスを見逃すな! 岡山はどこへ進もうとしているのか?	岡山市長 萩原誠司氏	168名
	8月23日(火)	社長さんのための財務講座パートⅡ	石井栄一公認会計事務所 代表 石井栄一氏	26名
	10月26日(水)	総務のツボ 教えます!	双田社会保険労務士事務所 所長 双田 直氏	31名
	12月7日(水)	(新会社法セミナー) おもしろくなる!ニッポン	姫井由美子司法書士事務所 所長 姫井由美子氏	26名
	1月8日(水)	時の流れ	(株)さえら 代表取締役 木谷忠義氏	160名 OB16名
	3月9日(木)	起ちあがれ岡山	(株)コンテンツ・ファクトリー 代表取締役 野村 滋氏	41名
平成18年度	6月19日(月)	四国アイランドリーグ石毛代表の講演会	四国アイランドリーグ 代表 石毛宏典氏	206名
	8月2日(水)	古本市場からアイ・カフェへ	(株)アイ・カフェ 代表取締役 秋山良夫氏	78名
	9月26日(火)	これからのビジョン 政策について	岡山市長 高谷茂男氏	128名
	1月18日(木)	今年の岡山県経済の展望	日本銀行岡山支店支店長 鶴飼博史氏	136名
平成19年度	4月27日(金)	商工会議所の有効の活用方法 商工会議所の活用の仕方	岡山商工会議所中小企業振興部 部長 高木広輝氏	29名
	6月23日(土)	地域と中央の視点で同じテーマを考える 内閣府の若手官僚との意見交換	内閣官房参事官補佐 鈴木英敬氏 内閣府政策統括官付参事官付 浅野大介氏	23名
	7月24日(火)	オンリーワン商品・オンリーワンサー ビスの作り方 顧客ニーズ・オリジナリティ自己分 析・知恵の収集・情報のインセンティ ブについて	企業競争力研究所 所長 高杉康成氏	33(38)名
	8月1日(水)	短時間PR力勉強会 提案型営業・販売スタイルについて	企業競争力研究所 所長 高杉康成氏	27(51)名
	8月22日(水)	地域資源を活用した中小企業の事業展開 地域資源活用促進法の説明・ビジネス 交流会	中国経済産業局産業部中小企業課	13(95)名
	9月21日(金)	スポーツ文化とまちづくり スポーツを通じての街づくりの必要性	ファジアーノ岡山スポーツクラブ 社長 木村正明氏	143名
	10月10日(水)	経営革新セミナー 経営革新のメリットと必要性・YEG メンバーによる経営革新事例発表・経 営革新アドバーザーによる相談会	中小企業診断士による相談会	13名
	1月21日(月)	岡山を日本のハリウッドに外から見た 岡山の魅力・FCの重要性	映画監督 滝田洋二郎氏	160名
	2月27日(水)	マーケティングとは何か?何故必要か? マーケティングの重要性につて	(株)ジー・エフ代表取締役 兼 CEO 中部大学客員教授 仲吉昭治氏	43名

# “うらじゃ”でのブース出店

## 1. 目的

- (1) “うらじゃ”への岡山商工会議所青年部としての参加
- (2) 新入会員のチームワーク向上
- (3) 事業を実施することによる、商工人としてのスキル向上

## 2. 経緯

市民参加型の祭として1994年に始まり、岡山の夏の一大イベントとして定着している“うらじゃ”。

この祭に、岡山商工会議所青年部として会員研修委員会（現オリエンテーション委員会）の新入会員が、青年部の事業の入門編として参加し、岡山商工会議所青年部をアピールできないかと考え、2005年から出店しています。

2005年は、かき氷、フランクフルト、酒類などの一般的な屋台を出しましたが、2006年、2007年とカレー店を出店したものです。

メニューについては、検討に検討を重ねた結果、他にカレー店の出店がないこと、“うらじゃ”のカラーにちなんだ赤カレー、黒カレーがふさわしいと考え決定しました。



## 3. 事業内容

- (1) 2006年のメニュー
  - ・温羅カレー（赤カレー・黒カレー）
  - ・フライドポテト
  - ・ビール
  - ・チューハイ
  - ・ソフトドリンク
  - ・豆腐
- (2) 2007年のメニュー
  - ・温羅カレー（赤カレー・黒カレー）
  - ・かき氷
  - ・ビール
  - ・チューハイ
  - ・ソフトドリンク
  - ・豆腐



パンフレット





2006年集合写真



2007年集合写真

#### 4. 総括

出店に当たり、会員研修委員会全員で知恵を出し合いました。

会員研修委員会全員が参加した事業となりました。

全員参加することにより、チームワークの大切さを学びました。

岡山商工会議所青年部の多くの会員の方に前売チケットを購入していただきました。

岡山商工会議所青年部の会員から協賛をしていただきました。

おどりに参加した方、おどりを見に来た方、通りすがりの方、多くの方に来店していただき、笑顔に接することができました。

“うらじゃ”に参加した高知の子供たちに楽しみにしていただいています。

早朝からの準備・出店の後、総おどりに参加し、“うらじゃ”への参加を実感しました。

そして、新入会員は、岡山商工会議所青年部の会員は「協力してくれる」ということを学びました。

# 吉井川フェスタへの協力

## 1. 事業の目的

「吉井川に・ふれ・知り・まもる」「一日海水浴場の復活」というテーマに賛同し、吉井川フェスタ（1992年から開催）の開催の為に実行委員会主催メンバーとして参加協力及び運営協力を行なう事によって河川保護意識の向上及び新たな文化の創造の為の一助となる事を目的とする。

### （経緯）

平成4年、吉井川フェスタ実行委員会により「吉井川フェスタ」と題して、吉井川の河川敷にてフォーラム、コンサート、フリーマーケット等、各種イベントを開催し、吉井川を身近に感じる事により、地域の大切な自然資源に対する認識と、川の恵みを受ける地域の人々の交流を目的として開催されました。また主管団体の西大寺青年会議所の働きかけにより岡山市、瀬戸内市の後援協力も得られ、多い年では2,000人を超える来場者もありイベントの円滑なる事業運営のため、平成8年より西大寺YEGも主催団体の一員として参加協力することとなりました。

## 2. 事業の内容（平成19年度実績）

- (1) 河口の碑建立
- (2) 宝探しイベント
- (3) ビーサン飛ばし選手権イベント
- (4) ラムネ一気飲み大会イベント
- (5) 吉井川クリーン作戦



## 3. 岡山YEGの協力内容

- (1) 飲食ブース出店
- (2) 宝探しイベント協力
- (3) 会場の設営協力（おもに会場の撤去作業）
- (4) 吉井川クリーン作戦の協力



## 4. 事業の実績

- (1) 来場参加数 約1,000名

岡山市東備地域、瀬戸内市地域の住民

- (2) 参加者属性

～10代 約20% ～20代 約15% ～30代 約15% ～40代 約20% ～50代 約20%

- (3) イベント認知

地域小学校へ配布されるイベントチラシによる告知、および各市無料広報誌への掲載による告知のため西大寺近隣以外での認知は少ない。

## 5. 総括

吉井川フェスタ実行委員会の事業目的、本質、方向性を岡山YEGとしても理解すべきであり、また現在事業協力を行っているイベント部分においても岡山YEGとして十分な協力体制がとれるよう今後検討すべきである。

# 少年はだか祭り・明るいはだか祭りへの協力

## 1. 事業の目的

厳寒の中、少年達が故郷の伝統行事「会陽」の当日に開催される「少年はだか祭り」に参加することにより、郷土愛の育成、心身の健全な発達、そして未来の明るく豊かな地域社会の担い手となることを願い開催する。

### (経緯)

昭和46年、西大寺青年会議所により青少年の健全育成を目的として事業がスタートしました。その後、青年会議所の働きかけにより岡山市、瀬戸内市、両市教育委員会の後援協力も得られ、近年では500人を超える小学生男児の参加者を受け入れるようになり、参加者の安全確保第一と円滑なる事業運営のため、平成14年よりは地元地域の関係団体の協力により「少年はだか祭り実行委員会」を設置することとなり、同じく西大寺YEGも主催団体の一員として参加協力することとなりました。

## 2. 事業の内容

### (1) 宝餅争奪（1、2年生対象）

小学校1、2年生の元気な男子によります紅白のお餅の争奪戦を行う宝もち参加隊が行われます。

### (2) 五福筒争奪（3、4年生対象）

宝筒争奪戦へのステップとして、3、4年生が約10本の八角形の小さな筒を奪い合う五福筒争奪戦を執り行います。

### (3) 宝筒争奪（5、6年生対象）

最後に5、6年生の健康な男子によって執り行います宝筒争奪戦は、2本の宝筒を投下し、これを獲得した少年を福男児と致します。枝宝筒を投下し争奪戦のより一層の充実を願っております。



## 3. 岡山YEGの協力内容

- (1) 参加者の受け入れ準備（まわしの締め込み）
- (2) 参加者の安全確保（会場内の警備、誘導）
- (3) 会場の設営協力（おもに会場の撤去作業）
- (4) 「会陽」での「明るいはだか祭りへの協力」として会場警備の協力



## 4. 事業の実績

### (1) 参加児童数 約500名 小学生男児

岡山市教育委員会、瀬戸内市教育委員会、管内の小学校に在学中の児童及び剣道スポーツ少年団に所属する児童

### (2) 参加者属性

1、2年生 約100名 3、4年生 約150名 5、6年生 約250名 の男子児童

### (3) イベント認知

地域小学校へ配布される参加要項チラシによる告知、および各市無料広報誌への掲載による告知のため西大寺近隣の小学校以外での認知は少ない。

## 5. 総括

少年はだか祭り実行委員会と岡山YEG担当者と事前打合せ、協議を行い、当日発生する変更依頼事項にもスムーズに対応が取れるよう今後協力体制を確立して行くことが望ましい。

# 会陽懇親会の開催運営

## 1. 事業の目的

西大寺会陽の開催にあたり、岡山YEG会員相互の親睦と岡山県内YEGのメンバーや他団体（JC）のメンバーと交流を深めることを目的とする。

### （経緯）

平成15年より会陽懇親会を西大寺YEGと県内YEGとの懇親を深めるため開催。平成17年には第22回全国会長研修会岡山会議のエクスカージョンとしても開催し、平成18年よりは西大寺青年会議所と共同開催することとなった。現在では「少年はだか祭り」の協力事業もあり西大寺青年会議所との交流も含め県内YEGや、他団体との交流も行っている。



## 2. 事業の内容（平成19年度実績）

- (1) 懇親会会場の設営
- (2) 地押し、本押しへの参加

## 3. 岡山YEGの協力内容

- (1) 会場設営協力
- (2) 会陽（地押し、本押し）への参加
- (3) 「明るいはだか祭り」への警備協力

## 4. 事業の実績

- (1) 参加数 約90名  
西大寺青年会議所、備前青年会議所、玉野青年会議所、総社青年会議所、岡山YEG、総社YEG
- (2) 参加者属性  
YEG関係者 約50名 青年会議所関係者 約40名
- (3) イベント認知  
日本三大奇祭として知名度が高く、岡山以外からの参加問い合わせが多い。



## 5. 総括

岡山YEG、西大寺青年会議所の開催趣旨を念頭に置き、それぞれの団体の立場を考慮に入れ共同開催し協力を行うことが今後望ましい。

また、その中で「少年はだか祭り」へ協力参加頂いた感想を皆さんから報告してもらったり、本押しへの目標や思い出などを語って頂き、西大寺青年会議所との共同開催を意義の有る懇親会にできればと考える。

# わっしょいカーニバルへの参加(西大寺再発見ツアーの開催)

## 1. 事業の目的

ツアーに参加された方に、西大寺の歴史を知って頂き、歴史ある街としての認知をしてもらう事で、西大寺に対する関心をより持ってもらう。また、アンケートを通じて、西大寺を再発見し、街づくり事業のよりどころとしたい。

### (経緯)

瀬戸大橋開通の年より、西大寺商工会議所・西大寺商店会連合会主催のもと開催。わっしょいカーニバル西大寺の開催も20周年を迎え、西大寺YEGも10周年を過ぎYEGとしても街づくり事業の一環として西大寺見て歩きツアーを開催することとなった。

## 2. 事業の内容 (平成19年度実績)

- (1) わっしょいカーニバルへの参加
- (2) 地元観光ボランティア団体との懇談

## 3. 岡山YEGの協力内容

- (1) 西大寺再発見ツアーの開催

## 4. 事業の実績

- (1) 参加数 約50名  
わっしょいカーニバルの来場者
- (2) 参加者属性  
40～60代の西大寺地域近隣の男女
- (3) イベント認知  
わっしょいカーニバル実行委員会が発行するイベント告知チラシによる掲載  
YEG作製によるハンドチラシの配布(当日)

## 5. 総括

西大寺再発見ツアーそのものは街づくり事業としての有意性は感じられるもののわっしょいカーニバルそのものが地域の活性化につながるよう岡山YEGとして提言、提案することが望まれる。

また、西大寺再発見ツアー開催日の選定については年間を通し西大寺地域で行われるイベントに合わせて集客度、認知度の高い時期を一度考える必要がある。





## 20周年を迎える皆さんへ

私たちがこの事業に取り組むにあたり、一番最初に行った事は10周年の検証でした。過去の資料を紐解き、15年の節目に何をすべきか、何を伝えていくべきか。しかしその答えを出すにはこの5年間はあまりにも多くの出来事や変化がありました。

ここからの頁は、評価や感想よりも今回の15周年事業の内容を資料として残しておくことで20周年を迎える皆さんの「羅針盤」の一助になればと思い編集致しました。

**岡山YEG創立15周年実行委員会**

# 岡山YEG創立15周年 概要

岡山商工会議所青年部 創立15周年 記念事業・記念式典・記念祝賀会

**岡山YEG創立15周年**

15周年テーマ 見つけ出そう! 20周年へ向けての新たな羅針盤

Okayama YEG  
15th Anniversary  
Youth Energy Generator

ご参加の皆様は、「情報」「役立ち」「気づき」「連携」をお届けします

会場:岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)

**平成19年11月24日(土)**

- 記念事業 ●  
テーマ「ビジネスチャンスを探ろう!」  
県内YEG会員対象
- 一期一会! この出会いから何かが始まる!
- 1部 基調講演 10:00~11:15  
講師 マーケティングコンサルタント 三宅健司氏
- 2部 ビジネス交流会 11:20~12:00  
県内YEG会員のみのビジネス交流会を開催  
異分野間でのビジネスチャンスの発見
- 商工会議所会員対象(参加無料)
- YEG企業 見本市 12:00~17:00  
県内YEG会員の企業による自由出展PFI・商展
- 学ぶ門には富貴たる! 14:00~17:00  
~知って得する企業相談所~  
ビジネスに役立つ経営者のセミナーを開催  
高橋アースコーポレーションも講師予定

**平成19年11月25日(日)**

- 記念式典 ●  
テーマ「運故知新」  
10:30~12:00
- ・直近の代議員感謝状贈呈
- ・現長期ビジョン締結・ピーパー表彰
- ・15周年記念事業報告
- ・新長期ビジョン発表

- 記念祝賀会 ●  
テーマ「岡山再発見」  
12:15~14:00
- ・岡山地産を使ったフードバトル開催
- ・地産地消による岡山名物料理と屋台
- ・岡山郷土芸能

詳しい内容・お問い合わせは岡山YEGのホームページ  
<http://www.optic.or.jp/okyes> をご覧ください。

岡山YEG15周年実行委員会

平成19年11月24日(土)

部会	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	
祝賀会部会	10:30~11:15	基調講演	三宅健司	11:20~12:00	ビジネス交流会	三宅健司	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	11:20~12:00	ビジネス交流会	三宅健司	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	

平成19年11月25日(日)

部会	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	
祝賀会部会	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	12:00~17:00	見本市	三宅健司	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司
	14:00~17:00	企業相談所	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司
	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司	12:15~14:00	記念祝賀会	三宅健司	10:30~12:00	記念式典	三宅健司

## 岡山YEG15周年実行委員会 組織図





# 列席者名簿

岡山商工会議所青年部 創立15周年 記念式典・記念祝賀会ご列席の皆様(順不同 敬称略)

岡山県知事	石井 正弘								
岡山市長	高谷 茂男								
岡山県青年中央会 (社)岡山青年会議所	会長 佐藤 一美 理事長 吉村 武大 副理事長 石田 敦志 専務理事長 高橋 茂樹	総社商工会議所青年部	会長 頼経 正 直前会長 坪井 祥隆 副会長 親 健一 副会長 岩佐 紀之 理事長 出原 則弘 事務局 平田 洋之	高梁商工会議所青年部	会長 石井 勝司 直前会長 石井 雅之 副会長 伊藤 栄三 副会長 森 剛 総務委員長 藤岡 孝 研修委員長 井上 善雄 経済委員長 島 一郎 総務副委員長 永田 尚則 経済委員 中村 宏史				
(社)西大寺青年会議所	理事長 岡田 康志	備前商工会議所青年部	会長 北川 昌邦 直前会長 吉延 嘉一郎 たこ委員長 神田 英則	玉野商工会議所青年部	会長 川口 雅之 副会長 田中 修 副会長 岩谷 清光				
岡山商工会議所	会頭 岡崎 彬 名誉会頭 大森 壽夫 副会頭 木谷 忠義 副会頭 若林 昭吾 副会頭 大蔵 久 副会頭 松市 松久 専務理事 窪津 いづみ 理事 石井 宏明 女性会会長 博子 事務局 河原 隆久 事務局 松岡 幸司	新見商工会議所青年部	会長 大谷 國治	井原商工会議所青年部	会長 片岡 秀憲 直前会長 後藤 一郎 監事 小寺 由夫				
岡山商工会議所青年部連合会	会長 清水 明人	児島商工会議所青年部	会長 神馬 真一郎 直前会長 齊藤 謙次 顧問 杉野 樹彦 事務局 片山 裕之	笠岡商工会議所青年部	直前会長 浅野 竜博 副会長 長安 博 専務理事 山本 茂雄 顧問 山尾 秀樹 監事 畑中 和敏				
津山商工会議所青年部	会長 本郷 信之 副会長 前川 一郎 監事 小林 伸一 監事 北奥 実	日本商工会議所青年部	会長 原田 隆司 副会長 星野 良行 副会長 野島 進吾 専務理事 浅井 秀明 平成17年度会長 荒濱 健太郎 平成17年度監事 竹川 博子	高知商工会議所青年部	会長 小谷 一雄				
玉島商工会議所青年部	会長 西井 涉 直前会長 狩野 良弘 副会長 清水 いづみ 幹事長 滝澤 幸	中国ブロック商工会議所青年部連合会	会長 杉本 昇	高松商工会議所青年部	会長 宮内 和彦 副会長 中條 慎也 理事・監事 鎌田 浩二				
倉敷商工会議所青年部	会長 藤木 達夫 直前会長 植木 一行 副会長 平井 強 副会長 井上 政人 理事長 福川 修介 理事 山本 由佳里 理事 山本 陽子 監事 渡壁 孝治 事務局 三宅 孝治 事務局 片山 直樹	四国ブロック商工会議所青年部連合会	会長 中川 正道	米子商工会議所青年部	会長 野口 力也				
岡山商工会議所青年部-OB	綾部 欽一 上神 良和 大森 後藤治 近藤 典博 中村 利夫	日本商工会議所青年部 総務委員長	山口 一男 山内 毅 加倉井 巧 千石 泰範 宮本 貴光 山本 真嗣 大谷 辰夫 大澤 寿伸	鳥取商工会議所青年部	会長 赤山 涉 副会長 藤谷 誠年 副会長 森下 泰年				
		日本商工会議所青年部 広報委員長	鈴木 大介 山田 英樹						
		松浦 広司	澤根 育生	大岩 道典	吉原 洋二	藤井 良徳	戸部 正昭		
		安原 孝則	西下 裕平	梶木 俊樹	井上 和宣	室賀 康史	堀 秀樹		
		石井 秀明	三垣 日出人	田中 信行	大塚 祥文	梅本 博通	森松 秀人		
		榎本 明	山本 守	藤井 一也	岸 卓志	大塚 雅司			
		岡崎 昌仁	石井 英行	村上 史朗	鶴海 元	木下 富雄			



# 記念事業部会

## タイムスケジュール

平成19年11月24日（土）

会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
1F	イベントホール	8:00~12:00 基礎講演		11:00~13:00 出席者準備		13:00~17:00 企業見本市		17:00~18:00 出席者おたづけ				
	カフェ					13:00~17:00 商談ブース(通常営業・飲食有料)						
	ロビー	8:00~12:00 基礎講演		11:00~13:00 出席者準備		13:00~17:00 企業見本市		17:00~18:00 出席者おたづけ				
2F ママカプリオーラム	イベントホール	8:00~9:00 準備	9:00~10:00 受付	10:00~11:15 記念講演	11:20~12:00 ビジネス交流会(途中 お着席)	13:00~14:00 おたづけ						
	301							受付	14:20~16:30 企業見本市			
	302							受付	15:00~17:00 企業見本市			
	311	8:00~17:00 スタッフ控室										
	312											
	313											
	314	12:00~17:00 講師控室										
315	9:00~17:00 講師控室											
4F	405							受付	14:00~16:00 企業見本市			
	406											
	407							受付	13:30~15:30 企業見本市			

<Home Page>

## 一期一会 YEGタウンページ発行





# 記念祝賀会部会

## コンセプト・概要

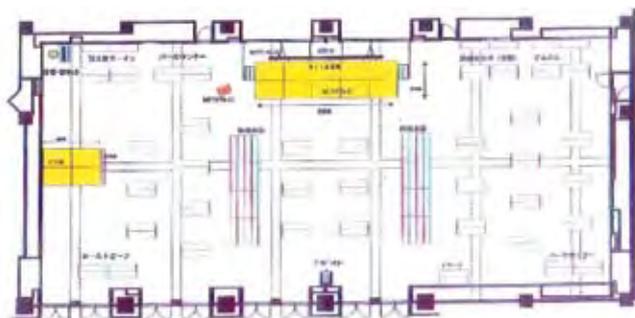
テーマ	「岡山再発見」
食 事	立食スタイル ① 岡山の食材を使用した名物料理コーナー及び屋台 ② フードバトルコーナー ③ ホテル料理コーナー
イベント	ふじた傳三郎太鼓 祝賀会の始まりに約15分の演奏 フードバトル 岡山地鶏（山水地鶏）を使用したフードバトル 4人のシェフが腕を競う
司 会	西日本放送 宮宇地美穂 フードバトル 担当 塚本晃久
フードバトル参加者	① 河忠（創作居酒屋） ② 三粹（日本料理） ③ みつば（豚・鶏料理） ④ HARU（和風創作料理・YEGメンバー）

## タイムテーブル

時刻	進行	担当	内容
12:05	オープニング 演出	1Fイベントホール	↑ 太鼓演奏 ウェルカム ドリンク
12:19	開会		
12:20	主催者挨拶	岡山YEG 塩見会長	
12:30	ご祝辞	大塚祥文OB代表	
12:35	乾杯	清水明人県連会長	
	●料理長説明		●飲食タイム
	ご祝辞	岡山県知事 岡山市長	
12:55	●フードバトル		
13:25	↓		
13:55	中々挨拶	岡山YEG 岩堂室長	
14:00	閉会	司会者	



## 会場レイアウト



# その他

## 収支決算

岡山YEG創立15周年記念事業・記念式典・記念祝賀会事業 収支報告書

収入の部				支出の部				
収入の部	内容	金額	小計	支出の部	内容	金額	小計	
事業費		2,500,000	5,739,350	(全体)会場費・飲食費		3,125,419	5,733,226	
登録料 OB会員	@10,000*32名	320,000		(全体)全体印刷費		345,450		
友好YEG・県内YEG 登録費		590,000		(全体)会報掲載・送料		48,570		
日本YEG・親会・来賓祝い金、登録費		280,000		(全体)協力委員会実費経費(広報ビデオテープ代)		3,990		
記念事業関連 岡山YEG見本市出展料		212,350		周年総務・企画調整部会		416,156		
記念事業関連 ビジネス交流会参加費 岡山97名他56名	@2,000*56名	112,000		記念式典部会		534,923		
岡山県連補助金(記念事業)		50,000		記念事業部会		530,843		
補助金(ビジネス交流会・見本市)岡山県分		300,000		記念祝賀会部会		727,350		
現役会員特別登録費	@5,000*274名	1,370,000		振込み手数料		525		
タウンページ代金	@1,000*5冊	5,000		経営革新事業(講師謝金、会場使用料)		432,225		432,225
経営革新事業補助金		432,225		余剰金		6,124		6,124
収入合計				支出合計				
6,171,575				6,171,575				



20周年を迎えた皆さんへ

私たちは15周年の節目をこのような形で通過しました。  
 先輩方の歩いた足跡に感謝し、未来の私たちの姿を想像しながら各事業を企画・運営致しました。  
 決して全ての手法がモデルケースではないかも知れません。  
 しかし、20歳を迎えた岡山YEGにとって、今回の15周年事業が一つの「羅針盤」になれば幸いです。

## ● 5 長期ビジョンの総括と新長期ビジョン

### 岡山YEG長期ビジョン総括

明日の岡山YEGを考える会議

大塚雅史会長の平成14年度に挙行された岡山YEG10周年記念式典において五年後へ向けて岡山YEGが目指すべき姿として、「造ろう、ビーバーオアシス岡山」をスローガンに掲げ、愛らしいマスコットキャラクターと共に長期ビジョンが初めて発表されました。長期ビジョンを策定して進むべき方向を明確にした取り組みに対し、平成15年度の全国商工会議所青年部連合会からYEG大賞特別賞を授与されました。

その後、平成15年度の井上和宣会長を皮切りに平成19年度塩見会長にいたるまで、長期ビジョンを指針として会長方針を提示し、具体的に行動が続けられてきました。

#### —— 平成14年度に策定された長期ビジョン ——

「若き企業家」の名の下に結集した岡山の商工業に携わる者達が、業種を越えて出逢い、例会・委員会・事業活動等の中で研鑽をつみ、信頼関係を深め、ネットワークを拡大し、新たなビジネスチャンスを創造するとともに、置かれた時代やこの地の課題を分析しながら、共に暮らす街の真の繁栄のために、若い発想を駆使し、魅力あるまちづくりの一翼を担う。



## 「造ろう、ビーバーオアシス岡山」

### 具体的イメージアプリケーション

- 不況の洪水を会員相互の研鑽で乗り切ろう
- 流木(若い発想)を集めて、素通りする経済効果を塞ぎ止めよう
- 生きがい産業やエンターテイメントを仕掛けて淀みをオアシスに変えよう
- オアシスに集い、真の豊かさが世界に誇れる岡山を造ろう
- 近隣の友人ビーバーとも力を合わせ、連携パワーを産み出そう

※水辺に住むビーバーは、その習性から流木で手作りのダムを造り、その快適な居住空間で餌を捕獲しながら暮らす働き者であると報告されています。また、そのダムは自然災害防止や生態系の保護にも役立っているそうです。

## 長期ビジョンをもとにした五年間の総括

### 業種を越えた出逢い

信頼関係やネットワークの強化に向け、新入会員へのオリエンテーションや委員会活動の充実が図られ、例会の出席率も向上し、会の活力の基盤となっています。多くの会で会員が減少する傾向の中で入会希望者が多く、入会を制限するほどになりました。

### 会員相互の研鑽、ビジネスチャンスの創造

経営者としての資質向上に寄与する「あきんど塾」はすっかり定着し、商工会議所と合同でセミナーを企画するなど年々内容も充実し、経営革新を取得する会員も増えてきました。会員がウェブ上で事業紹介ができる「あきんどモール」の開設やお互いに自社のPRや悩みを話しあう「ビジネス交流会」が開催されるなど。新たなビジネスチャンスを生み出す仕組みも充実してきました。

### 連携パワーの創出

平成16年度に開催された全国会長研修会岡山コンファレンスでは、会長研修会の本質を問い、今でも全国で語り草となる研修会を一丸となって開催しました。その過程で得た経験と自信、さらには県内のYEGや全国のYEGとの連携の絆は今も大きな資産となっています。特に県内YEGとの連携の絆は年々深くなり、県内YEGが連携した事業を生み出すところまで来ています。また、日本YEGにおいて活躍する人材も毎年輩出し、日本YEGの変革にも大きな寄与をしてきました。

### 生きがい産業やエンターテイメントの仕掛けによるオアシス創造

若い発想を元に、幾多の困難を乗り越えて実施された、Hey Say Cafeや四国アイランドリーグの岡山開催などは、まさに生きがい産業やエンターテイメントを仕掛けることであり、経済効果も生んでおり、今後の発展が期待されています。また、岡山の魅力再発見などの活動も展開いたしました。魅力あるまちづくりに向けて、自分たちの発想を形にすることで社会が動くことを実感することができました。

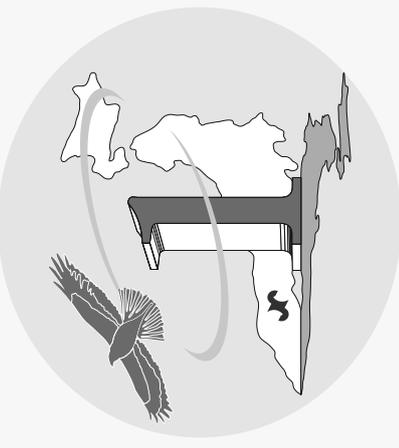
平成19年度からは岡山市との懇談を定期的に行うことも始めました。行政のスタッフとも交流を深め、行政の施策に積極的に関心を持ち、将来に責任ある世代として行動することが求められていると感じています。

### 総括

以上のようなことから、創立10周年記念式典で発表された長期ビジョンについてはほぼ達成し、現在の岡山YEGの活力につながったと総括することができます。これもひとえに、関係各位のご協力と長期ビジョンを元に歴代会長がそれぞれの年度の課題を方針として提示し、全会員が一丸となって取り組んできた積み重ねが結実した結果です。

## 次期長期ビジョン（2008年～2012年）

平成19年の11月に開催された岡山YEG15周年式典の場において、次期長期ビジョンが発表され、新たなステージに向けた方向性が示されました。次期長期ビジョンは平成17年度YEGブランド推進会議での議論を踏まえ、平成18年度ビジョン推進会議において、会員へのアンケートやさまざまな会員との意見交換を通して議論を深め、原案が策定されました。平成19年4月の西大寺YEGと岡山YEGの合併による新たなスタートを踏まえ、原案をもとに例会で原案を説明した後、各委員会等においても意見を求め、修正を加えて、理事会審議、総会決議を経て、15周年記念式典での発表にいたしました。次期長期ビジョンの特徴は、多種多様な会員の存在を認め合い、将来に責任を持つ青年経済人としての資質向上を謳い、会員企業の進化と活性化、具体的な実践・検証を通したまちづくりへの参画を明記し、具体的な目標を設定して進捗を検証する事が提起されたことです。組織としての「なろう！YEG日本一」と同時に、「めざせ！ECONOMIC SURFER!!」という会員としてのスローガンを提示した事も特筆すべき事と思います。

<p><b>岡山YEG 長期ビジョン</b> (2008-2012)</p> <p>岡山YEGは、会員自らが例会、委員会、委員会、事業活動等を通じ、多種多様な会員の存在を認め合い、切磋琢磨しながら交流を深め、将来に責任をもつ青年経済人としての資質向上をはかることにより、様々なビジネスチャンスを生み出し、会員企業の進化と活性化を促す。</p> <p>また具体的な実践・検証を通じた提言をおこなうことでまちづくりに参画し、地域岡山の発展を支える一翼を担う。</p> <p>◎ <b>我々が置かれた時代とは</b></p> <p>我が国経済はバブル崩壊という「負の遺産」からようやく脱却し、民需主導による回復が続断していますが、まだまだ地域や業種による格差・バラツキは否めません。今こそ地域に新たな意識改革と行動が求められる時代です。岡山市においては広域合併を行い、政治指定都市を目指し自立した自治体になろうとしています。まさにこれから地域が主役の時代、そして地域に根ざした活動を展開するYEGの力を発揮する時代の到来です。私達「若き企業家」には経営の質を従来の軌道の中だけに収まることなく、新しい技術や情報を積極的に取り込んで、新たな可能性に果敢に挑戦することと同時に、活動を通じ結び合った仲間の有機的な融合により、地域社会に新たな活力を創出し、真に豊かな心を育む地域の実現に貢献していくことが求められています。</p> <p>◎ <b>岡山YEG長期ビジョンの背景</b></p> <p>1993年に設立された岡山YEGは、その歴史の歩みにおいて順調な発展を遂げ、全国有数のYEGに成長し、2007年には西大寺YEGと合併、「新岡山YEG」が誕生しました。置かれた時代背景を鑑れば、組織の内部充実はもちろんのこと、対外的にも「岡山YEGブランド」を発信・確立させることは必須です。ここに岡山YEGは新たなビジョンを掲げ、組織として、会員個人としての方向性を明確にして目標を定め、「決意・覚悟・誇り」を併せ持つ組織への進化を目指します。</p>	<h2>岡山YEGの向かう方向</h2> <p>岡山YEG 長期スローガン</p> <p>「なろう!YEG日本一」</p> <p>さすが岡山YEGと言われるべく日々進化していきましょう!</p>  <p>これで岡山YEGは日本一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 役立ち日本一 会員にとって一番役に立ち誇りもてるYEGとなろう</li> <li>● らしさ日本一 岡山の個性溢れる、らしさ日本一を生み出そう</li> <li>● 事業日本一 日本一のYEG事業を生み出そう</li> <li>● まちづくり日本一 行政と連携し日本一のまちづくりをしよう</li> <li>● ビジネス日本一 会員企業から日本一の企業を輩出しよう</li> </ul> <p>組織の目指す具体的な方向</p>	<h2>メンバーの向かう方向</h2> <p>岡山YEGメンバー 長期スローガン</p> <p>「めざせ!ECONOMIC SURFER!!」</p> <p>押し寄せてくる新しい波を乗りこえす "ECONOMIC SURFER" となるべく日々努力を重ねていこう!</p>  <p>これであなたも ECONOMIC SURFER</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まず海に飛び込もう、そして挑戦をはじめよう</li> <li>● ビッグウェーブに乗るために個々のスキルを上げよう</li> <li>● YEGボードに乗るために値する思いやりとモラルを持とう</li> <li>● チームプレーを強化し新たな波に乗る技術を得よう</li> <li>● 地域や社会へ貢献し伝説のサーファーとなろう</li> <li>● 毎日練習に明け暮れても、ファミリーを大切にしよう</li> </ul> <p>会員の目指す具体的な方向</p>
---	---	--

手帳サイズ

岡山YEG長期ビジョン

## ● 6 明日の岡山YEGを考える会議

### 明日の岡山YEGを考える会議報告

#### 総括

「明日の岡山YEGを考える会議」は平成19年度にはじめて設置された会議体で、会員の関心を深めながら次期長期ビジョンの最終案を策定すると同時に、会長からの諮問事項への答申や岡山商工会議所ならびに岡山市との関係強化に向けた取り組みを実施した。会議体は幹事も兼任であり、テーマに応じて参加者を募る運営はフレキシブルに様々な案件に対応できたと思う。事業や運営を担当する委員会とは別に長期的な視点、多様な視点でYEGのあり方を考える会議体があることはYEGの将来にとって非常に重要であると感じた。岡山商工会議所、岡山市との関係強化の糸口ができたことは次期長期ビジョンの具体化に向けた条件整備として良かったと思う。

#### メンバー

議長 梶谷俊介  
副議長 根木克己 廣野景治 山本岩男  
幹事 村松 太 三垣 貴 山根理絵  
参加者 テーマに応じて関係者の参加を求めた

#### 議長所信

平成19年4月、それぞれの歴史を重ねてきた岡山YEGと西大寺YEGは合併し、新しい岡山YEGとしての一步を踏み出しました。また、岡山市も都市ビジョンを公表し、政令指定都市を念頭に岡山の新しいかたちをつくろうとしています。私たちはこれからの社会に対して責任ある世代として、岡山市の未来にしっかりとコミットしていく必要があります。

明日の岡山YEGを考える会議では、昨年度末に提案された新長期ビジョンを深め、これからの時代に求められる岡山YEGの役割と可能性を探求して諸制度の見直しを進めてまいります。同時に、行政当局、岡山商工会議所とも意見交換を行い、YEGの多様性と行動力を活かして、岡山のあたらしいかたちづくりに参画する道を模索してまいります。

会議にはテーマに応じて幅広い会員の参加を募る予定です。新しい岡山YEGに相応しいステップアップに向けて、皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

#### 実施事項

##### 1. 長期ビジョン関係

長期ビジョンの会員への理解活動と総会決議

6月に委員長会議を開催し18年度に策定された長期ビジョン案について意見交換、例会においてビジョン案を説明し、各委員会で長期ビジョンについて話し合ってもらい、意見を集約した。この過程で長期ビジョンに対する関心を深めてもらうことができたと思う。委員長会議や委員会からいただいた意見を踏まえて、18年度長期ビジョン推進会議のメンバーと共に最終案を策定した。最終案は長期ビジョン本文については原案を尊重し、スローガンの表現方法、目標については修正を行い、会としてのスローガンに対応するシンボルマークを追加することになった。最終案については理事会審議、総会決議を経て、15周年記念式典において延原会長予定者より次期長期ビジョンとして対外的にも発表された。

長期ビジョンの具体化に向けた目標案の提示

長期ビジョンで提示された5つの具体的方向性について、数値化できる具体的な指標案を参考として提示した。

長期ビジョン具体化に向けた組織ビジョン案の提示

長期ビジョンを具体化するための組織についての考察を提示した。

## 2. 会長よりの諮問事項

新入会員の資格と入会時期、選考方法について

新入会員のオリエンテーション（研修）のありかたについて

理事会において数度の協議を経て、審議した。

入会規定を改定し、新しい選考方法を20年度新会員募集から適用する。

協議の過程において新会員からも当事者としての意見が提示された。

新会員の入会資格、選考方法、オリエンテーションのあり方は将来の岡山YEGの人材を左右する重要案件、今後も定期的に検証が必要と思われる。

会長選考方法について

会長選考委員会の構成メンバーについては20年度に引き続き協議を行うが、選考委員会で推薦、理事会審議、総会承認という手続き並びに、会長資格要件の変更など会長選考規定を改定した。併せて理事選考方法についても見直し案を答申。

年会費について

年会費の値上げの必然性は当面は無いと答申した。

## 3. 岡山商工会議所との懇談会

正副会長との懇談会（平成19年6月4日、平成20年2月4日）

YEGについて理解してもらおうと同時に、懇親を深められるように懇親会を設営。

商工会議所のトップにYEGの正副会長他を個人的にも理解してもらい、突っ込んだ意見交換ができた。

商工会議所、YEGのあり方等についても意見交換し、長期的な展望を共有することも可能になった。

商工会議所事務局との懇談会（平成19年5月28日）

商工会議所部課長とYEG常任理事との懇談会を実施し、商工会議所の組織、事業について理解を深めたことにより、会員の商工会議所の利用が増加した。

YEGが企画を担当し、商工会議所として事業を実施することも可能になる土壌ができた。

今後は開催頻度を増やし、事務局とYEGの相互理解をさらに深めることで、商工会議所の利点を活用した事業展開ができ、メンバーにとっても商工会議所を企業経営に活かすことができると思われる。

商工会議所にとってもYEGが無くてはならない存在になりつつあることを実感した。

## 4. 岡山市職員との懇談会

目的

岡山市が進める市民協働のまちづくりにYEGとして協力する

岡山市の動き、重要課題を市民であるYEGメンバーが理解する

岡山市職員との懇談を通して、YEGが取り組むべきテーマを探る

市職員にとっても民間との情報交換を通して、政策立案運営のヒントを得る

官民協働のまちづくりの具体的事例を実施する

将来の岡山市をかたちづくることに主体者としてコミットして、自ら行動を起こす

YEGが具体的政策立案・行動集団として岡山市のシンクタンク機能を目指す

岡山市職員とYEGメンバーが忌憚なく意見を述べ合える関係を作る

## 参加者

岡山市 企画局、経済局、都市整備局、安全・安心ネットワーク室、秘書広報室の課長クラスの職員  
YEG 常任理事会構成メンバーならびに関係委員長

## 懇談会実施状況

平成19年2月1日

岡山YEGと岡山市の連携について

岡山みらい会議の提言と都市ビジョン策定の動向について

平成19年5月21日

岡山都市ビジョンに関する意見交換

岡山市安心・安全ネットワークの推進について

岡山市の政令指定都市について

平成19年7月17日

岡山国際音楽祭について

## 懇親会

平成19年8月

デジタルミュージアムの視察、活性化策について意見交換

YEGとしての意見書を提出

平成19年10月

政令指定都市区割り案について意見交換

2ヶ月に1回の定期開催を目指したが、年度後半は未実施となった。毎回、岡山市より7～8名の参加者があり様々な意見交換ができた。テーマを絞って実効性のある議論をする提案もあり、今後岡山YEGが岡山市の政策に積極的に関与する糸口が見えた。一方で岡山市が求めるパブリックコメント等に積極的に応えていく必要を感じた。前半の定期開催や懇親会の実施により市職員との関係は強化され、今後も懇談会を継続できる関係は構築できた。定期開催を実行するにはスケジュール管理が重要になる。

懇談会での情報をメンバーに伝え、メンバーの意見を集約して行政に意見具申する仕組みが今後の課題として残った。

## 5. 明日の岡山YEGを語る会

平成20年2月25日に31名の参加で開催した。新会員から卒業予定者まで多様な参加者で次期長期ビジョンを切り口に岡山YEGの可能性と個人としての行動を語り合った。特筆すべきは自ら進んでYEGに入会したメンバーは極めて少なく、勧められるか、断りきれず入会しているメンバーが大半であった。入会後の経験がメンバーの活動の動機となっている。チャーターメンバーの卒業予定者には岡山YEG、西大寺YEGの歴史についても語ってもらい、両YEGが歴史と共に大きく進化していることを確認し、今後さらに飛躍する可能性を認識した。

多様な会員が委員会を離れて、岡山YEGの可能性や個人の行動について自由に発言しあうことは相互に気づきがあり、有意義であった。今回は年度末に近い開催となったが、今後は早い時期にもこのような機会を提供することが良いと思う。

参加者からの意見は次年度以降、具体的に反映していただいたい。

# 会長選考規程改正について

## 会長選考のあり方

会長選考が不明瞭との意見があるが、理事会決議、総会承認をしているため問題はない。

YEGとして一貫性、信頼を確保するためには、会長が代わっても会としての方針等は継続性が求められ、直近の会の考え方を理解している必要がある。

会長は会を統括するため、副会長または専務理事として会全体のことに関わった経験者であることが必須条件。会長候補の資格要件は、会長として相応しいかどうか問われるため、入会年数の規定は必要ない。

会長は会の団結を維持する為、選挙ではなく話し合いで候補者を選考する事が良いと思われる。商工会議所においても、会頭は議員の互選で決定する事になっており、選挙は行っていない。会長選考委員会方式では選考委員の選考基準が不明確であり、また一般会員では会長候補者の資質や活動状況について不明な場合もあり、適切な選考が出来るとは限らないので、会長は会長候補の有資格者の互選で選ぶ事が望ましい。

しかしながら、上層部だけで会長を決めるのではなく、一般会員の意見も聞くべきとの意見もあるので、選考委員会については「20年度明日の岡山YEGを考える会議」に協議を引き継ぐこととする。

## 会長選考規程改正

第4条 次年度会長候補者は、次の各号の資格要件を満たす者でなければならない。

→ 次年度会長候補者は、次の資格要件を満たす者でなければならない。

(1) 会長就任時点において入会5年以上である事。

→ 削除。

(2) 会長就任までに副会長、専務理事、常任理事のいずれかの役職を経験していること。

→ 2. 会長就任までに副会長、専務理事のいずれかの役職を経験していること。

(規程の変更)

第7条 この規程の変更は理事会の議決により行う。

附 則

→ 3. 第4条、第7条の改定規定は、平成20年4月25日から実施する。

# 組織ビジョン 答申

## 課題

西大寺と合併し、広域化したエリアの個別の課題にどのように対応するか。  
会員数の拡大に対し、どのように求心力を維持するか。  
行政との関係強化、市民としての責任を果たすためにどのような組織が良いか。  
商工会議所との関係強化、責任ある立場を果たすためにどのような組織が求められるか。  
組織としての継続性を確保するために何が必要か。

## 組織案

岡山市内の各エリアの問題に対応するため、地域別の委員会（会議）を設ける。  
地域別の委員会（会議）はその地域に事業所または居住地がある会員で構成する。別途その地域の課題に関心のある会員の参加も受け付ける。  
地域別委員会には全員がどこかに所属する。

行政との対応、政策課題に対応するため、政策課題を検討する会議体を設ける。

商工会議所との連携を強化するために、商工会議所を研究する会議体を設ける。

長期ビジョンの進捗を検証し、YEGの在り方を検討する会議体を設ける

商工会議所に岡山YEGとして議員枠を確保する。  
YEGが議員としての立場で岡山商工会議所の活動に参画する。

対外的な継続事業は基本的に運営を将来NPO等の別組織としていくことを前提とし、YEGはその組織を応援するスタンスとする。

事業を行うよりは運動を展開する事を重視する。単会内に閉じこもらずに他の組織、自企業への展開を考える。

他YEG、日本YEG等との連携を蓄積し、広い視野と広域的な影響力を持つ。

会員期間の長期化への対応も考え、会員のおかれた状況により、活動期と休眠期を選択できる組織とする。必ずしも委員会配属を必須とせず、無所属扱いとし、関心のある事業だけへの参加を認め、会費は同様に徴収する。無所属であっても、調査等への協力は行うこと。

政策課題を検討する会議体、商工会議所を研究する会議体、長期ビジョンを検証する会議体には他の委員会と重複して所属する事ができる  
委員会配属においては本人による選択の余地を残すこと。

# 新会員の入会時期とオリエンテーション 答申

## 新入会員の入会時期について

基本的には年2回 4月と10月の2回とする。

## 入会人数

基本的には一回の入会人数は制限を設けない。

但し、応募状況によっては人数制限を行うことがある。

## 新入会員のオリエンテーション

YEGに対する理解を深めるために新入会員はオリエンテーションを必ず受ける。

オリエンテーションの期間は会のニーズに応じて3ヶ月から6ヶ月とする。

オリエンテーションは自立した経済人を前提として運営する。

## オリエンテーションの目的

新会員にYEGの基本について理解してもらう。

新会員が孤立することなく人脈を広げるためのベースを作る。

## オリエンテーションの内容

目的と基本プログラムを明確にし、年度によらず一貫性のあるものとする。

会員マニュアル等を活用し、YEGの基本の理解を主体とする。

YEGの目的、会則、組織、歴史等。

岡山YEGの長期ビジョン。

岡山YEGの年度方針。

YEGの組織・運営ツールを使えるようにする。

全委員会の内容を各委員会（委員長）より説明する。

理事会および委員会へのオブザーバー参加を行い、雰囲気を感じ取る。

オリエンテーションの内容・スケジュールは理事会で審議し、全理事が理解しておく。

運営費を一括（月額等）で徴収する場合は理事会で審議し、入会説明書に記載しておく。

オリエンテーションと2次会の位置づけを明確にし、2次会への参加は個人判断とする。

## 新会員の委員会配属後のフォロー

新会員が配属された委員会による新会員へのフォローを確実に行う。

入会2年未満のメンバーと正副会長による交流会を年2回程度開催することが望ましい。

## 理事選考のあり方について 答申

### 理事選考のあり方

現在は会長候補者が先に決まり、会長候補者がすべての理事並びに監事を推薦し、理事会、総会の承認を得て選任となっているため、実際はそうでなくても、会長予定者の独断で役員人事が決まるように誤解されるところがある。

実際は、理事から会長に次期理事の推薦があり、その中から会長が選任している。

理事について立候補、選挙制をとる事も考えられるが、理事についても推薦制が相応しいと思う。

### 理事選考方法について

現行の理事が推薦している理事選考の手続きを全会員に明確にする。

全ての理事を会長候補者が指名するのではなく、推薦された候補者の中から選任する際に現正副会長も参加して選考に当たることが望ましい。

また、何らかの方法で上記内容を明記することが望ましい。

## 年会費見直しについて 答申

### 年会費の推移

1993年 設立当初 年額 24,000円

2001年 値上げ 年額 36,000円

値上げ理由 会長研修会に向けて積み立てが必要

岡山県内で開催されるブロック大会登録への備え（当時は登録料の不足を理事より集金）

西大寺YEGの年会費 年額 18,000円 合併に伴い36,000円

### 状況の変化

#### 2001年当時

例会は年7回 出席率も50%を割る状況 事業も少ない。

ブロック大会等への参加者も少なく、登録数と実数が乖離し、不足を事業費で負担。

#### 現在

例会9回 出席率も向上 事業は大幅に増加。

ブロック大会等への参加数も増加し、登録数と実数に乖離が少なくなった。

受益者負担により事業費による負担少なくて済む。

### 事業増への対応

事業の増加に対し、年会費を増額して対応する事も可能だが、参加者の負担で事業を展開する事により、年会費の増額は回避できる。

多様な参加形態を認める上からは、参加者による受益者負担が適正であり、会費による補填は極力抑えるほうが良いと思われる。

特に参加できない会員にとっては年会費の増額は負担だけの増となる

会費は全会員が関係する運営費、広報費を中心に充当し、一部の会員が受益する事業については登録料で運営する事で会費の増額がなくても組織運営は今後も可能と思われる。

### 結論

現状では会費を上げる差し迫った理由はなく、増額の必要はない。

# 岡山YEG長期目標に対する具体的数値目標設定（参考案）

## 役立ち日本一

多様な業種、規模の会員にとって有益な会とし、会員数を増やし影響力を強くする。

会員の業種数 会員数 組織率 紹介率

県内をはじめ、他のYEG、日本YEGとの交流を深め、広域的な運動にも寄与する。

出向者数 交流YEG数

会員ニーズを把握し、多様なあきんど塾を商工会議所と連携して展開する。

あきんど塾の開催数並びに参加者数

## らしさ日本一

地域の諸団体（特に青年団体）との連携を深め、地域活性化運動のリード役を果たす。

交流団体数 運動展開数

岡山YEGのHPやあきんどモールを活用して岡山YEGのブランドを発信する。

HPへのアクセス数、あきんどモールの利用者数

岡山らしさを発見し広めた数

岡山の産物を再発見し、価値あるものとして発信できた数

## 事業日本一

岡山YEGの事業を契機に、有益な事業は会員を中心とした独立事業組織を立ち上げる。

YEG事業から生まれた独立事業組織数

岡山YEGの実施した事業を地域や全国に発信し、事業の輪を広げる。

YEG大賞への応募数

岡山商工会議所の事業計画にYEGが立案した事業を盛り込んで実行する。

岡山商工会議所に採択された事業数

## まちづくり日本一

岡山市の政策立案にYEGが意見具申し、決定後は行政と共に実現に寄与する。

政策立案に寄与した政策数

## ビジネス日本一

会員企業から経営革新取得企業を多数輩出する。

経営革新取得企業数

会員共同による新規ビジネスの立ち上げを展開する。

共同による新規ビジネス創出数

## 7 岡山YEG会員の素朴な疑問

- Q 1 事業が多すぎませんか？
- Q 2 カラオケ大会で歌って踊るのは、全員参加義務がありますか？
- Q 3 副会長と室長のお仕事は何ですか？
- Q 4 平成5年4月8日に青年部が発足したのは、何がきっかけですか？
- Q 5 岡山YEGジャンパーはどうしてオレンジなのですか？
- Q 6 委員会の予算はどういう方法で決まるのですか？
- Q 7 委員会ごとの収支決算を残していつていますか？
- Q 8 ATにアップされている過去のホルダーの整理は、誰がするのですか？
- Q 9 収益事業や予算の余りは、誰がどう管理していますか？
- Q 10 収益事業の利益は、税金対象にはならないのですか？
- Q 11 岡山YEGの会員数多すぎませんか？上限を決めないのですか？
- Q 12 どうしたら委員長や会長になれますか？

理事のみなさん、このような会員の素朴な疑問にどうぞ答えてあげてください…

## ● 8 日本YEGについて

### 日本商工会議所青年部【日本YEG】とは

- ・正式名称 全国商工会議所青年部連合会
- ・表 記 日本商工会議所青年部
- ・呼 称 日本YEG
- ・会 員 400単会（全国の商工会議所青年部）（未加入 44単会）
- ・特別会員 45道府県商工会議所青年部連合会 …未設置 東京都・山梨県  
9ブロック商工会議所青年部連合会  
総メンバー数 約26,000人（平成20年2月27日現在）
- ・事務局 日本商工会議所 中小企業振興部内  
東京都千代田区丸の内3-2-2 TEL 03-3283-7847 FAX 03-3211-4859

### 日本商工会議所青年部【日本YEG】の事業

日本YEGには3つの大きな事業があります。青年部の祭典として「全国大会」。全国を9ブロックに分けて研修と事業の成果について情報交換を行う「ブロック大会」。そしてこれからの青年部活動のためのリーダー研修の場としての「全国会長研修会」。この大事業を中心にヒューマンネットワークづくりを実践しています。

平成15年度からは、これら事業に加えて、会員へのビジネス機会提供と組織としての影響力の発揮に重点を置いています。前者としてはWEB上での会員相互のB to Bサイト「ご縁満開YEGビジネスサイト」をスタートしたほか、ビジネスプラン作成のための研修会とコンテストを実施しています。また、全国各地のYEGの実行するいろいろな事業を集約し、それを全国に良き先進的事例として情報発信できるように「YEG大賞」というコンテスト事業を実施しております。さらに、地域の課題をビジネスの手法により解決する「コミュニティビジネス」について、全国コミュニティビジネス協議会を通じて各地商工会議所青年部の事業を支援しています。後者としては、商工会議所本体の活動への参画や、他の青年経済団体との交流などに取り組んでいます。その組織連携として「エンジェルタッチ」の普及を行っております。

平成18年度は、国の若手官僚との意見交換も行ない、地域からの声を国や行政に訴えるためのパイプ作りがなされております。また、第三者個人連帯補償や事業継承・相続問題などの中小企業経営における諸問題についても、担当の委員会にて有識者の意見を聞きながら日商とともに政策の提言に向けて協議・検討を行っております。

### 日本商工会議所青年部【日本YEG】の歴史（あゆみ）

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また青年経済人として、資質の向上と会員相互の交流を通じ、自企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的に、全国各地の商工会議所に設置されています。

しかし、商工会議所のある都市部には各種団体の青年部などが多く存在し、中でも青年会議所の場合は商工会議所が面倒を見ているところも多いなどの背景もあって、青年部を設置することに消極的な商工会議所もみられます。一方で、商工会議所青年部の活動の中心は、あくまで企業経営の勉強の場であり、交流を通

じて企業の発展を図ることや商工会議所の強化にあるという理念、青年会議所等との相違点についての理解や認識が深まるにつれて、青年部を設置する商工会議所が急速に増えてきました。

このような中で、先進青年部の中から日本商工会議所（日商）に対して「青年部の全国組織化を図ってほしい」「全国大会を開催してほしい」という要請が、1979年（昭和54年）頃から出てきました。そこで日商では、全国組織化や全国大会を開催する前に、商工会議所青年部の目的、あり方を確認し合う必要があるとの観点から、地域ブロックごとに、青年部の運営研究所を開催してきました。

こうした経緯を踏まえ、「行動する商工会議所に若い力を」のスローガンのもとに、商工会議所青年部の初めての全国大会が1981年（昭和56年）11月に群馬県前橋市で開催されました。この大会で「全国組織化を図れ」との提案があり、参加者全員の総意で採択されました。

これを受けて日商では、全国9ブロックの青年部の代表25人から成る「全国組織化推進委員会」を設け、全国組織化の必要性について再確認するとともに、全国連合会が行うべき事業とその収支予算等について検討を重ねてきました。1982年（昭和57年）10月に富山県高崎市で「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」のスローガンのもとに第2回の全国大会が開催されましたが、その際、全国商工会議所青年部連合会の結成大会も併せて開催され、全国組織化推進委員会が検討してきた連合会の規約、事業計画、収支予算等が同大会で諮られ、その結果、全国商工会議所青年部連合会（通商：商青連）が、1983年（昭和58年）4月1日に発足することとなりました。

そして、2001年（平成13年）5月24日、商工会議所の組織基盤を強化し、商工業の改善発展に寄与するために、“商工会議所青年部を会員とする全国商工会議所青年部連合会を置く”として、全国商工会議所女性会連合会とともに日本商工会議所定款に明記され、その組織が日本商工会議所の一部として正式に認証されました。

また、2006年（平成18年）度より、正式名称「全国商工会議所青年部連合会」の表記を「日本商工会議所青年部」に、また呼称を「日本YEG」とすることになりました。

## 青年部の設置状況および日本YEG会員状況

- ・全国520商工会議所の内、444商工会議所に青年部設置：設置数85.3%
- ・444青年部の内、日本YEG会員青年部400：会員率90.3%
- ・都道府県連未設置：東京都連、山梨県連

(平成19年2月1日現在)

ブロック	青年部未設置商工会議所【76】	日本YEG非会員単会【44】	その他
北海道	【21】 小樽、札幌、旭川、室蘭、稚内、深川、紋別、森、士別、富良野、名寄、江別、倶知安、芦別、夕張、伊達、苫小牧、岩内、千歳、余市、留辺蘂		
東北	【0】	【0】	
関東	【14】 群馬県（1）高崎 東京都（7）八王子、武蔵野、青梅、立川、むさし府中、町田、多摩 神奈川県（2）横浜、川崎 静岡県（4）下田、磐田、伊東、熱海	【10】 埼玉県（2）飯能、川越 千葉県（4）市原、佐倉、浦安、君津 東京都（1）東京（足立、台東、江戸川、豊島支部） 山梨県（1）甲府 静岡県（2）焼津、富士宮	●東京都連（未設置） ●山梨県連（未設置）
北陸信越	【5】 新潟県（3）新潟、小千谷、糸魚川 石川県（1）金沢 長野県（1）松本	【10】 新潟県（4）上越、柏崎、新井、三条 長野県（9）上田、飯田、岡谷、伊那、小諸、駒ヶ根、佐久、飯山、千曲	
東海	【12】 岐阜県（8）岐阜、大垣、多治見、瑞浪、中津川、美濃、神岡、土岐 愛知県（3）名古屋、碧南、西尾 三重県（1）四日市	【4】 岐阜県（3）美濃加茂、可見、羽島 愛知県（1）常滑	
近畿	【8】 滋賀県（1）近江八幡 大阪府（6）大阪、堺、東大阪、豊中、池田、松原 兵庫県（1）神戸	【9】 大阪府（2）茨木、大東 兵庫県（6）姫路、尼崎、西宮、伊丹、西脇、宝塚 和歌山県（1）和歌山	
中国	【6】 鳥取県（1）境港 広島県（5）尾道、呉、福山、庄原、因島	【1】 広島県（1）三原	
四国	【0】	【0】	
九州	【10】 福岡県（5）福岡、北九州、大牟田、飯塚、直方 佐賀県（1）佐賀 熊本県（2）八代、本渡 宮崎県（2）延岡、日南	【7】 福岡県（3）山田、田川、苅田 佐賀県（1）有田 熊本県（1）牛深 宮崎県（1）西都 鹿児島県（1）阿久根	

# 日本YEGの「あるべき姿」

## 1. 日本YEGの現状

日本YEGの活動は各単位YEGに理解されていない。全国大会や会長研修会などイベントをやっているという印象が強い。

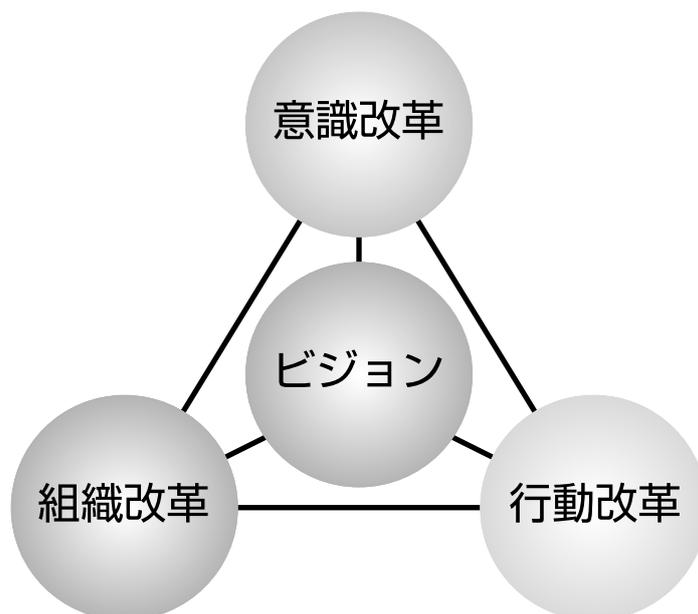
会員にとって有益な事業が継続出来ていない単年度制の弊害が如実に現れている。

特別会員であるブロックや道府県連の存在・位置が確立されておらず、連合会としてのスケールメリットを活かしきれていない。

## 2. 日本YEGを取り巻く背景

平成17年度「YEG未来創造委員会」、平成18年度「地域創造・支援特別委員会」において、商工会議所の大きな柱となっている三つの活動指針である「意見・建議活動」「まちづくり事業実施活動」「中小企業の振興活動」を、商工会議所の一翼を担っている青年部としても柱にしていくべきであるとの結論に達しました。

規約に謳われている現在の日本商工会議所青年部の目的は25年間改正されることもなく、交流と連携を図ることが主眼に考えられている。前述のように商工会議所の一翼を担うのであれば、全国組織である本会の方向性を示す目的は、全国の青年部の手本となるべきです。そこで、全国組織の力を最大限に活かして各地青年部の声を集約した上でそれらを精査し、必要に応じてフィードバックすることによって各地青年部の健全な発展を期すとともに、日本の商工業振興のため意見を申し述べていくこと、さらには我々青年部が変わることによって、親会である日本商工会議所自体を必要不可欠な存在へと意識改革することにより組織強化に寄与する事を目的の主眼にしていくことが必要となっています。



### 3. 「あるべき姿」の3つの改革宣言

#### 提言1「意識改革」

日本YEGは、各地域でさまざまな状況の中、出向し運営がなされています。各単位YEG会長・道府県連会長・ブロック代表理事より、推薦、承認を得て出向している以上は、代表者としての認識を持つべきである。

「意識が変われば行動が変わる」日本YEGは、会員である各単位YEGの见えない部分を大事にする。地域によっての考え方、問題点を同じ目線で考え、同じ仲間として問題を解決すべきである。もっと必要とされ、分かりやすい日本YEGを構築する。「商工会議所の一翼を担い、責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、貢献する」

##### 1-1. 「自己開示」

まずは、自己開示をしてみよう。人は、誰でも「自分を良く見せたい」という願望がある。他人には弱みを見せないようにして、知らず知らずのうちに背伸びをして無理をしているかもしれない。自分の弱い部分を含めた等身大の自分を他人に開示し、自分を変化させていく。自己開示によって自分の個性を自覚、自信を持つようになり、存在感が高まることにもなる。ただ、個性がはっきりすれば、周囲からの風当たりが強くなるが、その風に鍛えられて意識改革が進む。将来の夢などを自然体で語り、語る勇気を持ち、気持ちのドアは自分の中についている。ドアを開けるかどうかはその人の意思に委ねられているが、先に心を開いてこそ、他人も心を開く、そうすればおのずと心の連帯が生まれてくる。

##### 1-2. 「異体験」

組織に属すると、パターン化しやすい。毎年、同じ事を繰り返し同じ道を進んでいる、安心感はあるが自己満足の世界である。同じことの繰り返しをすれば、出会う人と固定化してしまう。勇気をだして違う道を進みそして行動をする事によって、各地域の考え方、会った事のない仲間に出会える事が出来る。YEGとは、異質な仲間に出会える最高の場である。異体験を行えば存在意識に蓄積され、意識の新陳代謝を促進しおのずから意識改革が進む。

##### 1-3. 「内観」

自分自身を内面的に見つめる。物事がうまくいかない時は、自分に原因を求めず、他に求めて自分自身を納得させようとする。「外観」になってしまう。

「内観」は自分自身に原因を探ろうとする。外観の原因は変えることは難しいが、自分自身を変えることができると思う考えが「内観」である。

一人で生きてきたのではなく、多くの人々に「生かされた」ことを忘れずに、すべての原点は自分であるが、周囲に感謝する気持ちを持ち、自分自身の存在を他人に役立てようとする意識に変えていく。

##### 1-4. 「意識改革のまとめ」

求められる役員像：

「基本的に求められるもの」

代表者としての自覚・高い使命感と責任

「今後、特に求められるもの」

会員の目線に立って考え、自ら行動する。

連合会としてのスケールメリットを最大限に活用する。

連合会として日本商工会議所を窓口にし、国に対して日本YEGに集う中小企業を取り巻く環境を守り、整え、改善するために、提言・提案をする連合会にする。

## 提言2「組織改革」

日本YEGと会員との連携を構築するために以下の項目を提言する。

1. 道州制をふまえた独立行政・地域活性化を進めるために組織の強化を図る。日本YEG、ブロック連合会・道府県連・単体会という組織連携を形成する。
2. 日本YEGの意向と地域の意見を把握し、疎通して個性豊かな地域創造をするブロック代表理事の役割を明確化する。
3. 常設委員会は主役が単体会であることを理解し、現在行っている事業を常に検証しつつ、出向者や単体会の負担が多くならないよう、また会長の意向に沿い、的を外さぬ様に活動する。
4. 特別委員会は単会をサポートする立場で将来を見据え、将来の展望につながる活動を目指す。
5. 役員会の議題や内容については透明化・情報公開の規定をつくる。
6. 出向理事の委員会配属は検討し、役員会での内容を各道府県に周知し、各道府県からの要望事項を取り纏めブロック代表理事に伝え、ブロック別会議にて協議し、日本YEGとブロック連合会の連携に尽力する。

## 提言3「行動改革」

1. 全国会長研修会について本来の目的に合わせ再構築することを図る。
2. 日本YEGとしてのビジョンを作成し検証する機構を構築する。
3. 日本商工会議所・行政と連携をとり、提言活動・諮問機関として国政に関与していく活動を行う。
4. YEG未設置商工会議所に設置要請・未加入単会の加入要請・会員の増強を図るとともに加入時においては日本YEG・ブロック連合会・道府県連の同時加入を求める。
5. 会員に対して、日本YEGの活動・事業を周知徹底する。

## 4. YEG中長期ビジョン提言会議 まとめ

(全国組織として商工業振興の支えとなろう！)

- 本会の方向性を示す目的は、全国組織の力を最大限に活かして、各地青年部の声を集約した上でそれらを精査し、必要に応じてフィードバックすることによって各地青年部の健全な発展を期する。
- 我々、青年部が携わることによって親会である商工会議所自体を、そして社会、また各地域において、必要不可欠な存在となることにより組織強化に寄与し、さらには日本の商工業振興のために積極的に意見を申し述べていく。
- 日本経済を支え、全企業の大多数を占める我々中小企業が、今後も発展の原動力とならなければならない。そのために何が出来るのか、何をすべきかを考える場がYEGでありその連合体が日本YEGである。
- 豊かで住みよい郷土創りに貢献するための意欲やアイデアを形にしていく事が出来る提言青年経済団体となる。

# 規約第1条（目的）および第3条（事業）の改正について

## 1. 規約改正について

全国商工会議所青年部連合会（日本YEG）の規約第1条（目的）は、25年間改正されることなく交流と連携が主眼となっておりましたが、青年部が商工会議所の一翼を担う組織となるために、全国組織である本会の方向性を分かりやすく示し目的を明確にするとともに、各地青年部の声を集約した上で商工業の発展のため、本会を必要不可欠な存在へと意識改革することを目的とするもの。また、目的の改正に伴い第3条（事業）の改正を行う。

規約改正は第25回全国会長研修会長崎塾に併せて平成20年2月9日に開催された第51回会員総会（長崎）で議案提出され、全員賛成で議決され、平成20年4月1日から施行されます。

## 2. 規約・第1条（目的）の変更

### 2-1. 改正内容

#### \*改正前

本会は、全国の商工会議所青年部の交流と連携をはかり、もってその健全な発展を期し、あわせて商工会議所の組織の強化に寄与することを目的とする。

#### \*改正後

本会は、全国の商工会議所青年部の健全な発展に貢献するとともに、商工会議所の組織の強化に寄与し、ひいては全国組織として商工業振興の支えとなることを目的とする。

### 2-2. 改正理由

全国商工会議所青年部連合会は、昭和54年頃から「青年部の全国組織化」と「全国大会を開催」のために、組織された経緯があります。そして当時より全国組織としてのメリットを最大限に活かした、会員間の交流と連携を、目的の主要素としてきました。しかし、全国的に中小企業のおかれている状況が悪化していることや、地方と都市部との格差が拡大していることなどを鑑みて、今一度、商工会議所青年部の役割について考える必要が生じてきました。そこで、平成17年度「YEG未来創造委員会」、平成18年度「地域創造・支援特別委員会」において、商工会議所を改めて知る事により、その役割の再確認がされた中で、商工会議所の大きな柱となっている三つの活動指針である「意見・建議活動」、「まちづくり事業実施活動」、「中小企業の振興活動」を、商工会議所の一翼を担っている青年部としても柱にして行くべきであるとの結論に達しました。

規約に謳われている現在の日本商工会議所青年部の目的は25年間改正されることもなく、交流と連携を図ることが主眼に考えられています。前述のように商工会議所の一翼を担うのであれば、全国組織である本会の方向性を示す目的は、全国の青年部の手本となるべきです。そこで、全国組織の力を最大限に活かして各地青年部の声を集約した上でそれらを精査し、必要に応じてフィードバックすることによって各地青年部の健全な発展を期すとともに、日本の商工業振興のため意見を申し述べていくこと、さらには我々青年部が変わることによって、親会である日本商工会議所自体を必要不可欠な存在へと意識改革をすることにより組織強化に寄与することを、目的の主眼にしていくことが必要となっています。しかし、先人の方々が25年間蓄積して頂いた事を我々は決して忘れてはなりません。

## 2-3. 解説

この目的は、「全国の商工会議所青年部の健全な発展に貢献する」、「商工会議所の組織の強化に寄与する」、「全国組織として商工業振興の支えとなる」という三つの要素で構成されています。

「全国の商工会議所青年部の健全な発展に貢献する」は、日本YEGはあくまでも連合会組織であり、各地域で活躍されている単位YEGの集合体です。よって各YEGの力の結晶体です。その一つひとつの結晶がより輝くこと、より強固になることこそが日本YEG発展の原動力となります。そこで、日本YEGとしては全国から集まる情報を精査して必要に応じて各単位YEGに伝えるとともに、全国会長研修会などの研修事業を通しての指導者養成をすることにより、全国の単位YEGが健全な発展をしていくようにという意味です。

「商工会議所の組織の強化に寄与する」は、我々日本YEGはあくまでも日本商工会議所の内部組織ですので、親会である日本商工会議所の発展なくしては日本YEGの発展も有り得ません。日本経済を支えてきた経済団体の代表として発言力を保つために、組織を大きく強固にすることは必須課題です。

「全国組織として商工業振興の支えとなる」は商工業者の集まりであるYEGの基本です。全国組織としてのスケールメリットを最大限に利用して、中小企業が活かされるような政策の実現に向けて取り組んでいく必要があります。

以上大きく三要素が日本YEGの根幹をなす部分であります。

上記を要約しますと、全国組織である本会の方向性を示す目的は、全国組織の力を最大限に活かして、各地青年部の声を集約した上でそれらを精査し、必要に応じてフィードバックすることによって各地青年部の健全な発展を期すとともに、我々青年部が携わることによって親会である商工会議所自体を、そして社会また各地域において、必要不可欠な存在となることにより組織強化に寄与し、さらには日本の商工業振興のために積極的に意見を申し述べていくことことにあります。

これまでの日本経済を支え、全企業の大多数を占める我々中小企業が、今後も発展の原動力とならなければなりません。そのために何ができるのか、何をすべきかを考える場がYEGでありその連合体が日本YEGであります。

## 3. 規約・第3条（事業）の変更

### 3-1. 改正内容

#### \*改正前

本会は、その目的を達成するための次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦と連携
- (2) 商工業の振興に関する建議・陳情
- (3) 青年経営者としての経営上の諸問題に関する調査研究および研修会の開催
- (4) 商工会議所青年部運営に関する情報・資料の収集および提供
- (5) 商工業の振興に関する事業活動の実施
- (6) 関係諸団体との連絡、協調
- (7) その他本会の目的達成に必要な事業

## \*改正後

本会は、その目的を達成するための次の事業を行う。

- (1) 会員相互の交流と連携
- (2) 商工業の振興に関する建議・陳情
- (3) 商工業の振興に関する事業活動の実施
- (4) 青年経営者としての経営上の諸問題に関する調査研究および研修会の開催
- (5) 商工会議所青年部運営に関する情報・資料の収集および提供
- (6) 本会としての意見を日本商工会議所会頭に具申・提言
- (7) 関係諸団体との連絡・協調
- (8) その他本会の目的達成に必要な事業

## 3-2. 解説

事業全般に関しては日本YEG規約の目的を遂行するために行う事業を掲げています。

大切なことはこれらの事業はどれが一番でどれはしなくても良いという事ではありません。事業全体で日本YEGの目的が遂行できるものというものですが、人が集まり交流がなされていれば自然と目的が達成されるわけでもなく、しかし人が集まらないところで日本の商工業者のために活動する日本YEGは運営できません。多くの物事が事象として現れてくる中では情報として一方通行である組織は自由で快活な流れを阻害します、その自由な流れを作り出す努力も必要な要素の一つとなります。

事業のどれが欠けても目的の遂行に支障が出る事となります。事業全体で一つの会の目的を達することができるということが事業全体を見渡す重要な考え方となります。

以下にそれぞれの事業の詳細を示します。

### ○「会員相互の交流と連携」は

日本YEGの会員は全国の単位YEGです。単位YEGとの結びつきを密に保つことを意味し、日本YEGとしては対象は単位YEGであり個々の会員相互の親睦や連帯はそれぞれ単位YEGの個々が行うべきです。また全国各地の広域な連携の場を提供することにより商工会議所本来の目的である日本の商工業者の快活で健全な発展を多くの立場から自由そして相手の立場や環境を理解し合い議論することができる立場・場面を作り出すことです。

### ○「商工業の振興に関する建議・陳情」は

具申・提言と混同しがちですが同じく商工業者の経済活動のために必要な提案や意見を商工会議所以外の外部機関に対し実情や考えを詳しく説明することや改善要請を行うことを意味しています、ただし我々日本YEGは日本商工会議所の下部組織でありますのであくまで日本商工会議所を通じ外部機関からの要請に対して行うことは前提となっています。

《建議》役所に意見を申し立てること。

《陳情》その問題についての決定権をもっている上位の者に実情を説明すること。特に、議会や関係官庁に実情を述べて、善処を要請すること。

### ○「商工業の振興に関する事業活動の実施」は

会員である単位YEGが商工業者の振興のために行う事業を把握すると共にその内容を全国の単位YEGにフィードバックすることを意味しています。

### ○「青年経営者としての経営上の諸問題に関する調査研究および研修会の開催」は

全国の商工業者に対する諸問題に対して共通の認識や共通な知識を持ちその上で地域間

の環境や制度上の違いを議論するその基となる調査研究と講習会を行う意味です。

○「商工会議所青年部運営に関する情報・資料の収集および提供」は

全国の単位YEGが行っている組織や運営に関しての情報や資料を集め、またそれを紹介することを意味し、春と秋に行われているブロック毎の会長会議や全国会長研修会、その他メディアを使用して収集・提供します。

○「本会としての意見を日本商工会議所会頭に具申・提言」は

日本の商工業者の経済力向上のために全国YEGから提出されてきた懸案や提案に対しその意見を我々日本YEGの上部団体である日本商工会議所の会頭に計画や意見を詳しく述べ、全国YEGや各地商工会議所に対して公表することです。

《具申》上役や上級機関に計画・意見などをくわしく申し述べること。

《提言》考え・意見を皆の前に示すこと。

○「関係諸団体との連絡・協調」は

日本YEGは、数ある青年経済団体の一つとして組織化され運営されています。それぞれの会は、独自の思想や立場で運営されているはずで我々日本YEGはその中で日本商工会議所を上部団体としてもち目的を遂行するために組織されています。この場合の関係団体は日本商工会議所がもつ組織であり委員会・特別委員会・全国商工会議所女性会連合会や他の青年経済団体等のことを指しています。

○「その他本会の目的達成に必要な事業」は

商工業者のために行うに必要な事柄の多くは日本YEGとして単独でできるということではなく必要によっては外部団体と協調する事も必要です。我々日本YEGが目的を達成するために必要と思われることをできるようにと言う意味です。

## 平成19年度 日本YEG中長期ビジョン提言会議 森議長（岡山YEG）

### 第51回通常会員総会にて提言書を原田会長へ



平成20年2月9日 第51回通常会員総会（長崎）

## 〈参考資料〉

岡山商工会議所青年部 新入会員研修マニュアル  
(平成18年度会員研修委員会編集)

目次	1. 商工会議所
	(1) 商工会議所とは
	(2) 目的
	(3) 性格
	(4) 仲間
	(5) 事業の種類
	(6) 商工会議所と商工会の違い
	(7) マークの由来
	2. 商工会議所青年部（Y E G）
	(1) 商工会議所青年部とは
	(2) 綱領、指針、宣言
	(3) 日本Y E Gとは
	(4) 組織
	3. 岡山Y E Gとは
	(1) 目的
	(2) 活動の基本的な考え
	(3) とにかく参加
	(4) 会員としての姿勢
	(5) 組織
	(6) 特別会員（O B会員）

---

発行 岡山商工会議所青年部  
監修 塩見 泰利 延原 正浩 藤井 将登 小野 進吾  
編集作成 平成19年度総務委員会 編集スタッフ  
藤田 文雄 鎌坂 隆之 延原 寛紀 宮本 峰希  
安田 寛 木原 宏 小林 宗宏 平田 裕章  
印刷製本 広和印刷株式会社 株式会社ブックス

平成20年4月25日発行

---

